

令和3年10月26日開催

## 石狩市教育委員会会議（10月定例会）資料

### <議案>

- ・石狩市学校給食センター運営委員会への諮問について・・・P21～P25

### <報告事項>

- ・令和3年度全国学力・学習状況調査結果について・・・・・・・・・・別冊
- ・令和3年度（第10回）図書館を使った調べる学習コンテスト  
「石狩市コンクール」審査結果について・・・・・・・・・・P27～P29

< 議案第 5 号 >

石狩市学校給食センター運営委員会への諮問について

◎ 諮問事項：学校給食費の改定について

● 給食費の改定状況

区 分		H19.4.1			H20.4.1	H22.8.1	H26.4.1
		旧石狩市	厚田区	浜益区	改定	改定	改定
小 学 校	低学年	224円	240円	240円	224円	236円	242円
	中学年	231円	240円	245円	231円	243円	249円
	高学年	236円	240円	250円	236円	248円	255円
中学校		273円	284円	290円	273円	297円	320円
単価改定の理由		3市村合併時の単価をそれぞれ継続			市内単価を 統一	食材費 値上げ対応	消費税率 5%→8%

● 管内市町村給食費単価一覧

区分毎に、単価の高い市町村から順に掲載している。

(令和 3 年 4 月時点)

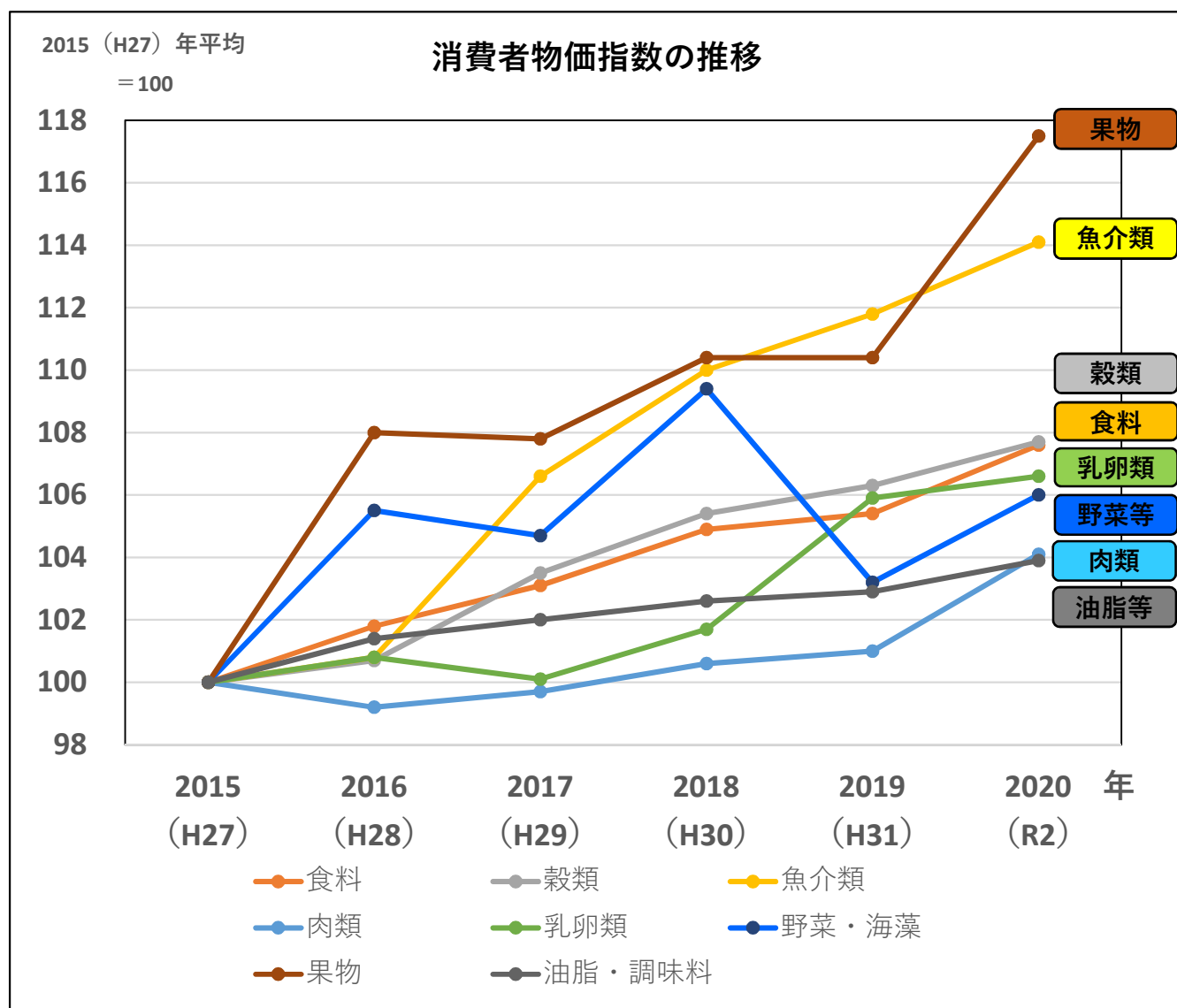
区 分		市町村名		R 3 単価	管内平均	
小 学 校	低学年	1	江 別 市	289円	261.43円 <b>札幌市 269.49円</b>	
		2	北 広 島 市	283円		
		3	恵 庭 市	265円		
		4	新 篠 津 村	255円		
		5	当 別 町	249円		
		6	千 歳 市	247円		※石狩市を除くと
		7	石 狩 市	242円		264.67円
	中学年	1	江 別 市	292円	268.50円 <b>札幌市 274.13円</b>	
		2	北 広 島 市	286円		
		3	恵 庭 市	270円		
		4	新 篠 津 村	259円		
		5	当 別 町	255円		※石狩市を除くと
		6	石 狩 市	249円		272.40円
		7	石 狩 市	249円		272.40円
	高学年	1	江 別 市	295円	272.00円 <b>札幌市 277.81円</b>	
		2	北 広 島 市	289円		
		3	恵 庭 市	275円		
		4	千 歳 市	266円		
		5	新 篠 津 村	263円		
		6	当 別 町	261円		※石狩市を除くと
		7	石 狩 市	255円		274.83円
中 学 校	1	江 別 市	351円	324.71円 <b>札幌市 328.49円</b>		
	2	北 広 島 市	342円			
	3	恵 庭 市	337円			
	4	石 狩 市	320円			
	5	当 別 町	317円			
	6	千 歳 市	304円		※石狩市を除くと	
	7	新 篠 津 村	302円		325.50円	

- ・千歳市の小学校単価は、「低学年」（1～3学年）と「高学年」（4～6学年）の2区分。
- ・新篠津村は平成30年4月、恵庭市は平成31年4月、令和2年4月及び令和3年4月の3年連続、江別市及び北広島市は令和2年4月にそれぞれ単価改定を行っている。

# ●消費者物価指数の推移（北海道地方） ※2015～2020

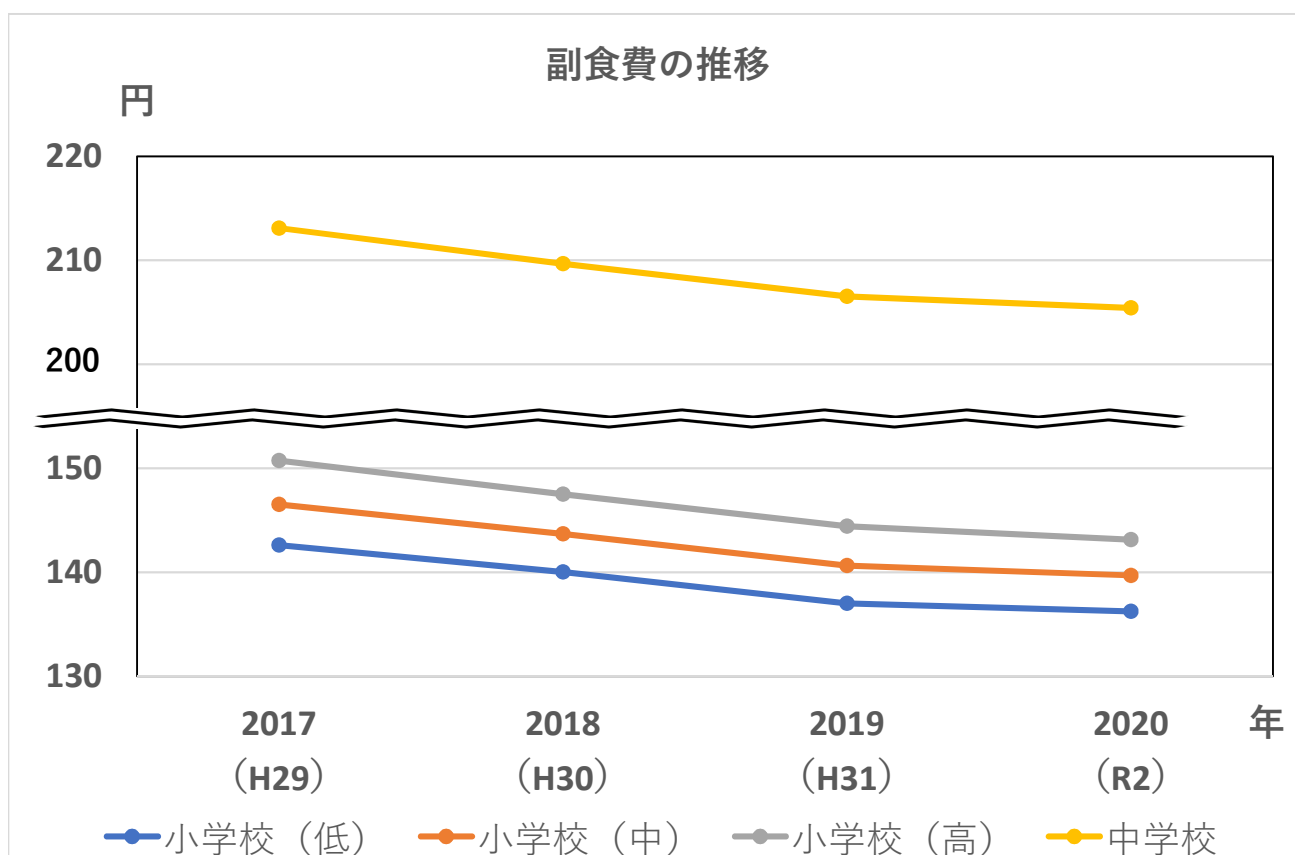
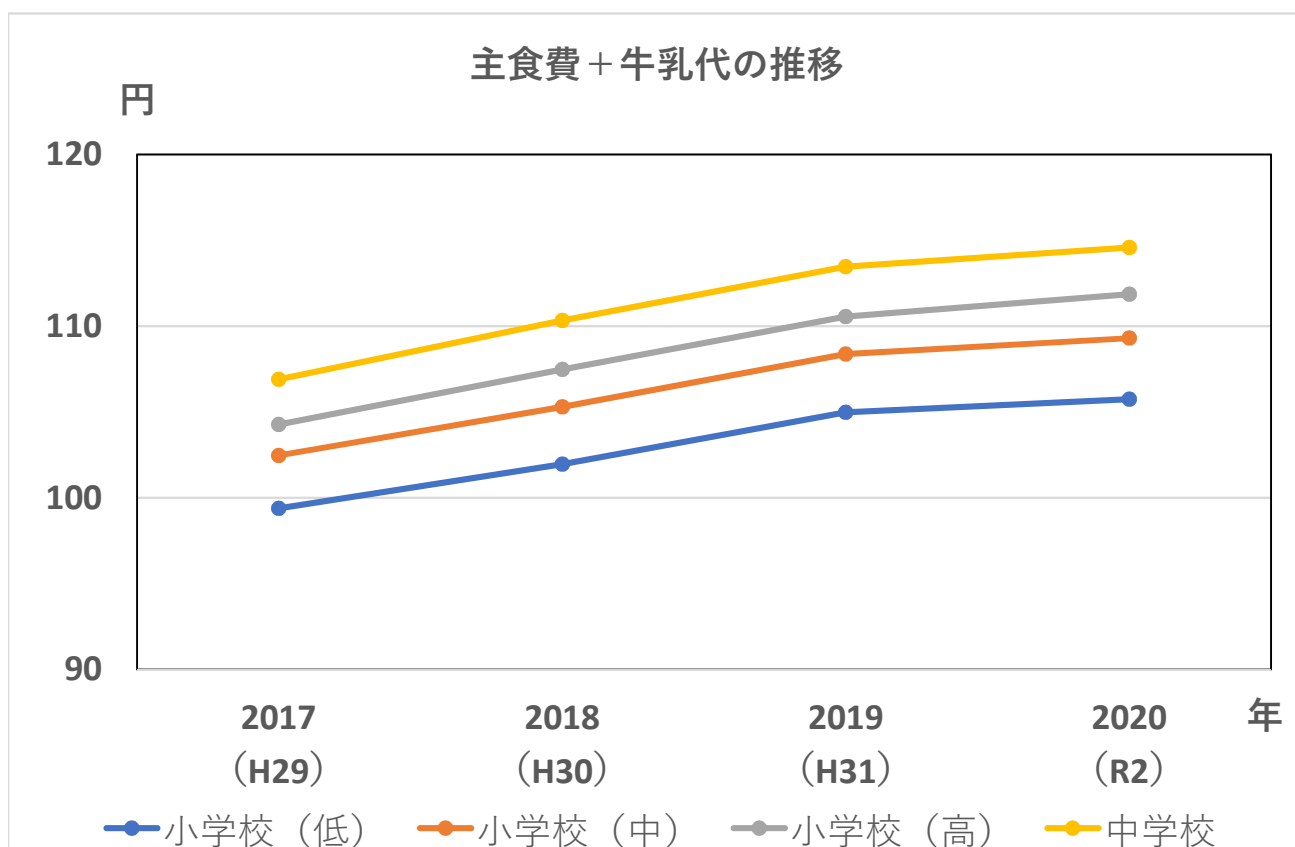
2015（H27）年平均＝100

区 分	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31)	2020 (R2)
食料	100.0	101.8	103.1	104.9	105.4	107.6
穀類	100.0	100.7	103.5	105.4	106.3	107.7
魚介類	100.0	100.8	106.6	110.0	111.8	114.1
肉類	100.0	99.2	99.7	100.6	101.0	104.1
乳卵類	100.0	100.8	100.1	101.7	105.9	106.6
野菜・海藻	100.0	105.5	104.7	109.4	103.2	106.0
果物	100.0	108.0	107.8	110.4	110.4	117.5
油脂・調味料	100.0	101.4	102.0	102.6	102.9	103.9



(出典：総務省統計局ホームページ)

## ●主食費＋牛乳代及び副食費の推移



## ●改定案

### 案1：石狩市を除く管内平均の金額に改定

区 分		1食単価（案）			備 考	
		現在の単価	改定案			
			端数処理前	端数処理後		改定率
小学校	低学年	<b>242円</b>	264.67円	<b>265円</b>	9.5%	月額4,400円→4,800円
	中学年	<b>249円</b>	272.40円	<b>272円</b>	9.2%	〃
	高学年	<b>255円</b>	274.83円	<b>275円</b>	7.8%	〃
中学生		<b>320円</b>	325.50円	<b>326円</b>	1.9%	月額5,400円→5,700円

※端数処理の方法は四捨五入による。

メリット ・中学生の上げ幅が小さい。

デメリット ・小学生の上げ幅が大きい。他市町村の動向に左右されるため、実際の単価とかけ離れた金額になる。

### 案2：平成29年以降の消費者物価指数の推移を利用して改定

※北海道地方の消費者物価指数（食料）

2020年(R2) ①	107.6	※2020年(R2)の107.6と 2015年(H27)の100を 比較すると割合は107.6%
2017年(H29) ②	103.1	
割合 ①/②	104.4%	

区 分		1食単価（案）			備 考	
		現在の単価	改定案			
			端数処理前	端数処理後		改定率
小学校	低学年	<b>242円</b>	252.65円	<b>253円</b>	4.5%	月額4,400円→4,700円
	中学年	<b>249円</b>	259.96円	<b>260円</b>	4.4%	〃
	高学年	<b>255円</b>	266.22円	<b>266円</b>	4.3%	〃
中学生		<b>320円</b>	334.08円	<b>334円</b>	4.4%	月額5,400円→5,800円

※端数処理の方法は四捨五入による。

メリット ・物価の変動に対応できるため、実際の単価に近い金額になる。

・定期的な見直しが可能になる。

デメリット ・中学生の上げ幅が大きい。

### 案3：案1及び案2のうち低いほうの金額に改定

区 分		1食単価（案）			備 考	
		現在の単価	改定案			
			案1	案2		低いほうの金額
小学校	低学年	<b>242円</b>	<b>265円</b>	<b>253円</b>	<b>253円</b>	月額4,400円→4,700円
	中学年	<b>249円</b>	<b>272円</b>	<b>260円</b>	<b>260円</b>	〃
	高学年	<b>255円</b>	<b>275円</b>	<b>266円</b>	<b>266円</b>	〃
中学生		<b>320円</b>	<b>326円</b>	<b>334円</b>	<b>326円</b>	月額5,400円→5,700円

メリット ・小学生及び中学生ともに上げ幅が小さい。

・物価の変動に対応できるため、実際の単価に近い金額になる。

・定期的な見直しが可能になる。

## ※改定案のポイント

5～2月分の給食費を300円引上げ⇒3月分の給食費は現在よりも軽減

(実質的な改定額は、小学生月額200円程度、中学生月額100円程度)

学 年		小学校						中学校			
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	
年間食数		190	195	195	195	195	190	190	190	185	
1食単価	現 在	242	242	249	249	255	255	320	320	320	
	改定案	253	253	260	260	266	266	326	326	326	
年 間 給食費	現 在	45,980	47,190	48,555	48,555	49,725	48,450	60,800	60,800	59,200	
	改定案	48,070	49,335	50,700	50,700	51,870	50,540	61,940	61,940	60,310	
	差 額	2,090 月190	2,145 月195	2,145 月195	2,145 月195	2,145 月195	2,090 月190	1,140 月104	1,140 月104	1,110 月101	
支払額	現 在	5～2月	4,400	4,400	4,400	4,400	4,400	4,400	5,400	5,400	5,400
		3月	1,980	3,190	4,555	4,555	5,725	4,450	6,800	6,800	5,200
	改定案 3①	5～2月	4,600	4,600	4,600	4,600	4,600	4,600	5,600	5,600	5,600
		3月	2,070	3,335	4,700	4,700	5,870	4,540	5,940	5,940	4,310
	改定案 3②	5～2月	4,700	4,700	4,700	4,700	4,700	4,700	5,700	5,700	5,700
		3月	1,070	2,335	3,700	3,700	4,870	3,540	4,940	4,940	3,310

### <報告事項③>

令和3年度（第10回）図書館を使った調べる学習コンクール「石狩市コンクール」の審査結果について

1. 審査会 令和3年10月12日（火） 午後4時から
2. 会場 石狩市民図書館 視聴覚ホール
3. 審査員 水崎 理（浜益中学校校長／石狩市民図書館協議会委員）  
鶴羽 伸介（花川小学校教頭／石狩市民図書館協議会委員）  
望月 静華（石狩南高等学校司書教諭／石狩市民図書館協議会委員）  
中川 つかさ（石狩中学校・花川北中学校・樽川中学校司書）  
西田 正人（教育委員会生涯学習部市民図書館長）
4. 応募作品数 全333点（小学校1・2年生11点、3・4年生37点、5・6年生54点、中学校231点）  
※昨年度は全318点（小学校1・2年生10点、3・4年生157点、5・6年生7点、中学校144点）
5. 受賞作品 最優秀賞4点、優秀賞9点、佳作14点、奨励賞21点

#### ■小学校1・2年生部門

賞	学校	学年	名前	作品名
最優秀	南線小	2年	鷹 翔太郎	クワガタスゴイぜ！
優 秀	花川南小	2年	中村 あさひ	雲のしゅるいとかんさつ
	緑苑台小	2年	蜂谷 真七斗	どうぶつしらべ
佳 作	花川小	1年	工藤 千聡	わたしのすきなとり
	花川小	2年	首藤 幸代	やさいのえいよう
	緑苑台小	1年	工藤 心結	ヒアシンス
	双葉小	2年	高橋 佑冴	クワガタのたのしいずかん
奨励賞	南線小	2年	藤井 裕也	ひこうき
	緑苑台小	2年	上田 敏貴	みんなでやろう！ソフトボール

#### ■小学校3・4年生部門

賞	学校	学年	名前	作品名
最優秀	南線小	4年	武田 明花音	どうしてじゃ口から、キレイな水が出てくるの？
優 秀	花川小	4年	工藤 稜野	マンホールについて
	南線小	4年	木谷 真愛	感染症って何？
	南線小	4年	萬谷 美柚	SDGs と私達が今出来ること ～2030年までの地球～
佳 作	花川小	3年	山本 美月姫	共生
	南線小	3年	藤田 真人	うちゅうのいろいろ
	花川南小	4年	佐藤 健太郎	お金のふしぎ
奨励賞	花川南小	4年	秋田谷 真帆	おすしについて

	双葉小	3年	中山 紗希	パンダについて
	紅南小	3年	上田 瑚夏	ハムスター図かん
	緑苑台小	3年	成田 笑梨	ほうせき、鉱物、化石について
	緑苑台小	4年	佐々木 小春	シナモン

■ 小学校 5・6年生部門

賞	学校	学年	名前	作品名
最優秀	緑苑台小	5年	鈴木 希実	アイヌ その衣服とししゅうの謎
優 秀	花川南小	5年	中村 航	ユニバーサルデザインとバリアフリーの道具と設備
	緑苑台小	5年	蜂谷 悠真	アンモナイトの秘密
佳 作	石狩八幡小	6年	工藤 まりん	SDGs からわかったこと
	緑苑台小	5年	小野 瑚雪	宇宙
	厚田学園 (前期)	5年	姫野 さくら	私が取り組んだ SDGs ～持続可能な開発目標～
奨励賞	生振小	5年	芦野 心音	地球おんだん化について
	南線小	5年	寺田 愛梨	ハムスター
	花川南小	5年	太田 琉偉	防ごう地球温暖化
	緑苑台小	5年	成田 栞理	お金のひみつ
	緑苑台小	5年	増田 ゆずか	犬について
	厚田学園 (前期)	5年	笹谷 葵	点字ブロックを利用してみんなが過ごしやすい町へ

■ 中学生部門

賞	学校	学年	名前	作品名
最優秀	樽川中	1年	能登 あかり	世界の主食
優 秀	樽川中	1年	平泉 志織	身の周りにおける微生物について
	樽川中	1年	福世 爽	SDGs～私たちにできること～
佳 作	樽川中	1年	福島 美月	知っている？温暖化のこと
	樽川中	1年	向井 紗那	クライミングの「面白さ」について
	厚田学園 (後期)	9年 (3年)	角田 紗弥佳	なぜ国語を学ぶのか
	厚田学園 (後期)	9年 (3年)	原 あずみ	電子書籍と本の比較
奨励賞	花川南中	1年	久保 結莉菜	オリンピックについて
	花川南中	1年	箱石 千鶴	毒蛇の研究
	樽川中	1年	東谷 樹	東京オリンピックについて
	樽川中	1年	岡田 空琉未	アイヌ人の生活について
	樽川中	1年	三橋 愛莉	「日本遺産」ってなんだろう？
	樽川中	1年	萬谷 麻菜	世界の謎な自然現象
	樽川中	1年	井坂 芽来	社会保険労務士について
浜益中	1年	山本 遥菜	図形について～折り紙で正六角形を作る～	



## 6. 今後の予定

### (1) 表彰式について

- ・ 例年、10月末の石狩市民図書館まつりの際に行っている表彰式は、新型コロナウイルス感染防止策のため、今年度は開催を中止する。
- ・ 表彰状及び副賞については、受賞者の各学校へ持参する（10月下旬以降予定）。

### (2) 全国コンクールへの応募について

- ・ 今年度は、下記の5点を全国コンクールへ応募する（全応募作品の1.5%以内）。
- ・ 全国コンクールへの応募報告締め切りは11月9日（火）まで。作品発送は11月17日（水）必着。
- ・ 全国コンクールの結果発表は、令和4年1月12日（水）13時予定であり、発表後は速やかに結果を各学校に通知する。
- ・ 応募作品の返却は、2月中旬以降、図書館振興財団から戻り次第、学校を通し、順次行う。

学校	学年	名前	作品名
南線小	2年	鷹 翔太郎	クワガタスゴイぜ！
南線小	4年	武田 明花音	どうしてじゃ口から、キレイな水が出てくるの？
緑苑台小	5年	鈴木 希実	アイヌ その衣服とししゅうの謎
樽川中	1年	能登 あかり	世界の主食
樽川中	1年	平泉 志織	身の周りにおける微生物について

## 7. その他

- ・ 他の応募作については、12月中旬以降に図書館振興財団から参加賞が届き次第、各学校を通し、順次返却する。
- ・ 入賞作品（最優秀賞、優秀賞、佳作）については、10月23日（土）から11月7日（日）までの期間、石狩市民図書館内においてレプリカの展示を行う。

< 報告事項 >  
令和3年度全国学力・学習状況調査結果について

## 令和3年度 全国学力・学習状況調査

～ 石狩市における結果の概要～

石狩市教育委員会



# はじめに

令和3年5月27日(木)に実施した令和3年度全国学力・学習状況調査の結果がまとまりましたので、掲載します。本調査は昨年度、新型コロナウイルス感染症流行による休校措置の影響で中止され、本年度2年ぶりに国語、算数・数学の2教科についての学力調査と児童・生徒質問紙及び学校質問紙による学習状況調査が全国一斉に実施されました。

## 本市の状況

### < 小学校の学力調査結果 >

- 国語・・・正答率は全国平均よりやや低く、全道平均との比較ではほぼ同様（下位）の結果となりました。一昨年との比較では、全国平均との差がやや広がりました。
- 算数・・・正答率は全国平均よりやや低く、全道平均との比較ではほぼ同様（下位）の結果となりました。一昨年との比較では、全国平均との差がやや縮まりました。

### < 中学校の学力調査結果 >

- 国語・・・正答率は全国・全道平均より低い結果となりました。  
一昨年との比較では、全国平均との差がやや縮まりました。
- 数学・・・正答率は全国平均より低く、全道平均との比較ではやや低い結果となりました。  
一昨年との比較では、全国平均との差がやや縮まりました。

### < 国語、算数・数学の2教科平均の学力調査結果 >

- 小学校・・・2教科平均の正答率が全国平均を上回る学校数は、10校中3校でした。
- 中学校・・・2教科平均の正答率が全国平均を上回る学校数は、7校中1校でした。

### < 児童・生徒質問紙の結果 >

- 改善傾向： 学習習慣等に関わる項目で、「計画的な家庭学習」や「平日の家庭学習時間を1時間以上する」割合が小中学生ともに増加傾向にあります。  
学習に対する興味・関心や理解度等に関わる項目で、国語、算数・数学の「授業の内容がよく分かる」や「学習したことが将来役に立つと思う」割合が小中学生ともに増加傾向にあります。
- 課題傾向： 規範意識・自己有用感等に関わる項目のうち「自分には、よいところがある」では小中学生ともに全道・全国平均より低く、一昨年度に比べて下降傾向にあります。  
基本的な生活習慣等に関わる項目のうち「朝食摂取や就寝時刻」で、小中学生ともに全道・全国平均をやや下回る結果となっています。

## < 学校質問紙の結果 >

学習規律の定着や学習指導・授業方法の工夫・改善が進められていることや家庭学習の定着に向けた学校の取組として「家庭学習への積極的な働きかけ」「補充的な学習指導」等に改善が見られ、「授業中の私語が少なく落ち着いている」と回答した学校が全国平均を大きく上回りました。また、学校力向上のため、コミュニティ・スクールの仕組み等を生かして、地域人材活用や保護者の学校支援活動、小中学校間の連携が着実に進展していることが分かりました。

石狩市教育委員会は、調査結果が児童生徒の身に付けるべき学力の特定の一部であることや学校における教育活動の一側面であることを踏まえつつも、学力面で全国平均に届いていない状況にあることや調査結果で明らかになった実態や取組の進捗と課題を真摯に受け止め、今後の学力向上への対策を各校と連携し進めてまいります。また、本市では「全国学力・学習状況調査」の他に、市独自に「CRT学力検査」を市内全校で実施しています。各校では、それらの調査結果も合わせて分析し、自校の日常の授業改善を図っています。

子どもたちの学力向上のためには、市民の皆様と成果と課題を共有し、学校・家庭・地域が一体となって取組むことが重要であると考えます。今後とも、市民の皆様のご理解・ご協力をお願い申し上げます。

## 全国学力・学習状況調査の目的及び実施状況

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 上記の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

### 2. 調査の対象学年

小学校第6学年、中学校第3学年

### 3. 調査の内容

- (1) 教科に関する調査【国語、算数・数学】
- (2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査（児童・生徒及び学校に対する調査）

### 4. 調査の方式

平成19年度～21年度：悉皆調査

平成22年度～25年度：抽出調査及び希望利用方式（石狩市は全校が実施）

（但し23年度は東日本大震災のため希望校のみの実施で石狩市は全校が実施）

平成26年度以降：悉皆調査（但し令和2年度は新型コロナウイルス感染症流行のため中止）

調査問題は、「国立教育政策研究所」のホームページで見ることができます。  
「国立教育政策研究所」を検索後、「全国学力・学習状況調査」をクリック

### 5. 調査実施日 令和3年 5月27日（木）

### 6. 調査実施学校数及び児童生徒数

小学校及び義務教育学校（前期課程）： 10校で実施 467名

中学校及び義務教育学校（後期課程）： 7校で実施 483名

# 令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果分析

【小学校 国語】

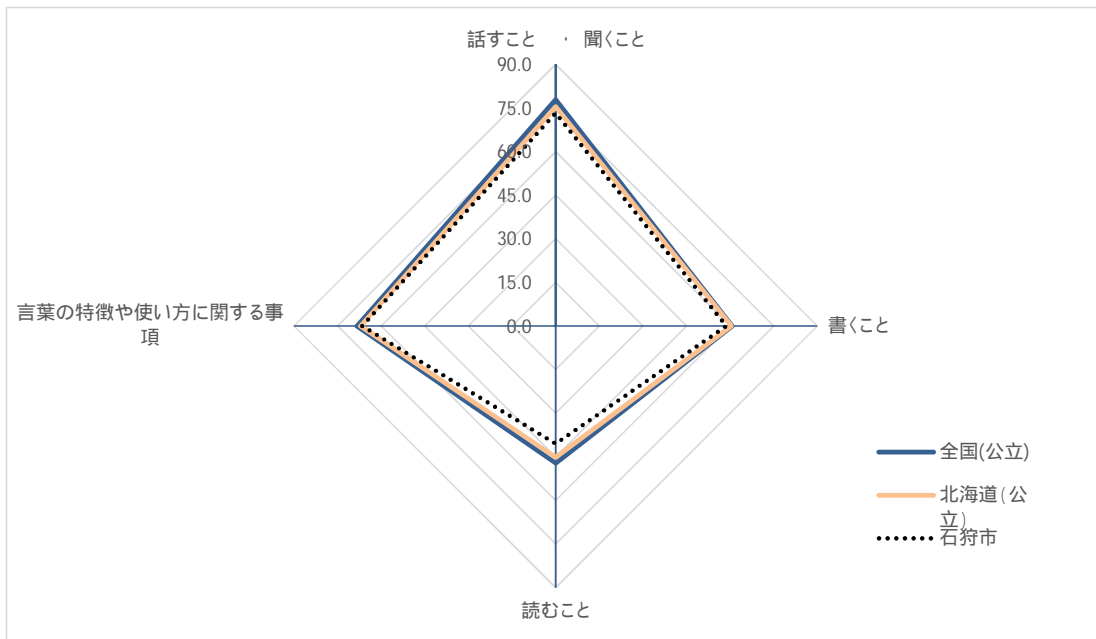
## 正答率の状況

	国語	
	平均正答数	平均正答率
全国(公立)	9.1問/14問	64.7%
全道(公立)	8.9問/14問	63.3%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い
	石狩市 :								
全国 :									

相当高い ... 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様(下位) ... -1ポイント以下 - 3ポイント未満の範囲内
高い ... 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い ... -3ポイント以下 - 5ポイント未満の範囲内
やや高い ... 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低い ... -5ポイント以下 - 7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様(上位) ... 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内	相当低い ... -7ポイント以下の範囲
同様 ... ±1ポイント未満の範囲内	

## 国語 領域等の平均正答率の状況



## 国語科の概要

国語の正答率は、全国平均よりやや低く、全道平均とほぼ同様(下位)の結果となりました。令和元年度との比較では全国との差はやや広がる結果となりました。

領域別では、「話すこと・聞くこと」は全道とほぼ同様(下位)であり、全国よりやや低い結果でした。「書くこと」は全道・全国とほぼ同様(下位)であり、「読むこと」は全道よりやや低く、全国よりも低い結果でした。また、「言葉の特徴や使い方に関する事項」では、全道と同様、全国とほぼ同様(下位)の結果でした。

問題形式別の正答率では、「選択式」は全道とほぼ同様(下位)であり、全国よりやや低い結果でした。「短答式」は全道・全国よりやや低い結果でした。また、「記述式」は全道とほぼ同様(下位)であり、全国よりやや低い結果となりました。

## 国語

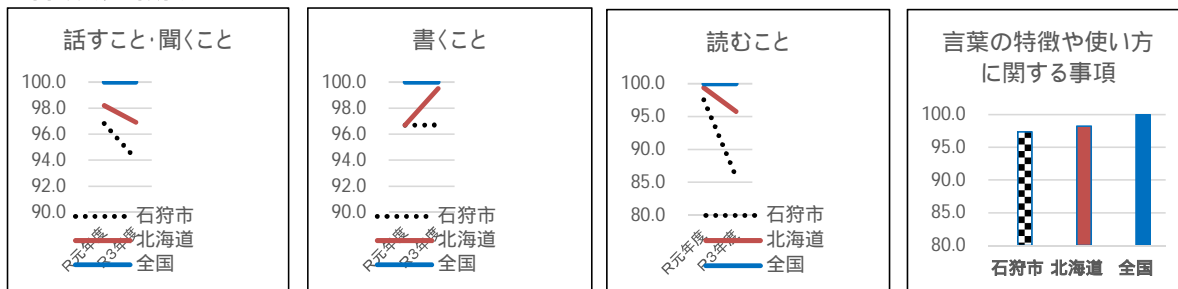
### 調査問題の内容

学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題されています。なお、小学校第5学年までの内容となっています。

(例)

- ・津田梅子について調べて紹介する【スピーチ】で、どのような構成で話しているか適切なものを選択する。
- ・面ファスナーについて書かれた【資料】を読み、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見つけ、面ファスナーのくっつく仕組みを書く。
- ・自分の考えが伝わるように、反対する理由を明確にして、【文章の下書き】の ----部を詳しく書き直す。
- ・【文章の下書き】の中の ——部を漢字を使って書き直す。
- ・設問数は14問です。

【各領域の傾向】 グラフは全国を100とした前回調査との比較(但し、言葉の特徴や使い方に関する事項は本年度のみ)



- ・「話すこと・聞くこと」の領域は、全道とほぼ同様(下位)、全国よりやや低い傾向を示しています。
- ・「書くこと」の領域は、全道・全国とほぼ同様(下位)の傾向を示しています。
- ・「読むこと」の領域は、全道よりやや低く、全国より低い傾向を示しています。
- ・「言葉の特徴や使い方に関する事項」は、全道と同様、全国とほぼ同様(下位)の傾向を示しています。

### 【成果の見られる問題例】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
1三	津田梅子についての【スピーチ】の練習の【二】の部分で話す内容として適切なものを選択する。	目的や意図に応じ、資料を使って話す	話すこと 聞くこと	75.8%	78.1%	81.0%
2二	面ファスナーに関する【資料】の文章の中の「より」と同じ使い方として適切なものを選択する。	思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う	言葉の特徴や使い方に関する事項	86.5%	86.4%	87.5%
3三(1) ア エ	丸山さんの「文章の下書き」の中の ——部ア(ころがっている)、エ(げんいん)を漢字を使って書き直す	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う	言葉の特徴や使い方に関する事項	76.9% 75.4%	79.6% 77.0%	78.3% 79.0%

### 【課題の見られる設問例】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
2三	面ファスナーに関する「資料」を読み、メストラルは何をヒントにどのような仕組みの面ファスナーを作り出したのかをまとめて書く	目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見つける	読むこと	28.3%	32.0%	34.4%
2四	面ファスナーに関する「資料」を読み、面ファスナーが国際宇宙ステーションの中でどのように使われているのかをまとめて書く	目的を意識して、中心となる語や文を見つけ、要約する	読むこと	22.9%	27.4%	29.7%

## 【指導の改善にあたって】

### 【問題番号 2 三 読むこと】

・ 図表やグラフなどを含む文章を読む際には、文章中に用いられている図表などが、文章のどの部分と結びつくのかを明らかにし、文章と図表などとの関係を捉えて読むことが重要です。その上で、必要な情報を結びつけて内容を理解することができるように指導することが大切です。

また、学習指導に当たっては、目的に応じて文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つける指導の充実が大切です。

### 【問題番号 2 四 読むこと】

・ 要約するとは、文章全体の内容を正確に把握した上で、元の文章の構成や表現をそのまま生かしたり自分の言葉を用いたりして、文章の内容を短くまとめることです。要約する目的を意識して、文章全体から内容の中心となる語や文を選び、要約の分量などを考えて要約することができるように指導することが大切です。

## 【教科（国語）に関する意識（児童質問紙項目43～51より）】

- |      |  |
|------|--|
| (43) | 「国語の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道の58.7%、全国の58.4%に対して石狩市は57.6%で、全道より1.1ポイント、全国より0.8ポイント低くなっています。  |
| (44) | 「国語の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の93.8%、全国の93.2%に対して石狩市は92.5%で、全道より1.3ポイント、全国より0.7ポイント低くなっています。  |
| (45) | 「国語の授業の内容はよくわかりますか」に対する肯定的な回答は、全道の84.9%、全国の84.2%に対して石狩市は83.1%で、全道より1.8ポイント、全国より1.1ポイント低くなっています。  |
| (46) | 「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の92.0%、全国の91.8%に対して石狩市は92.3%で、全道より0.3ポイント、全国より0.5ポイント高くなっています。  |
| (47) | 「国語の授業では、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりしていますか」に対する肯定的な回答は、全道の81.2%、全国の82.2%に対して石狩市は80.3%で、全道より0.9ポイント、全国より1.9ポイント低くなっています。   |
| (48) | 「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしていますか」に対する肯定的な回答は、全道の63.4%、全国の63.8%に対して石狩市は65.1%で、全道より1.7ポイント、全国より1.3ポイント高くなっています。   |
| (49) | 「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりしていますか」に対する肯定的な回答は、全道の70.9%、全国の71.6%に対して石狩市は72.4%で、全道より1.5ポイント、全国より0.8ポイント高くなっています。  |
| (50) | 「国語の授業では、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり自分の考えを広げたりしていますか」に対する肯定的な回答は、全道・全国の74.3%に対して石狩市は72.2%で、全道・全国より2.1ポイント低くなっています。  |
| (51) | 「今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、どのように解答しましたか」について「最後まで努力した」との回答は、全道・全国の81.3%に対して石狩市は81.8%で、全道・全国より0.5ポイント高くなっています。関連して、3問あった記述式問題の無解答率の平均は、全道の6.7%、全国の6.4%に対して石狩市は4.4%で、全道より2.3ポイント、全国より2.0ポイント低くなっています。 |



# 令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果分析

【小学校 算数】

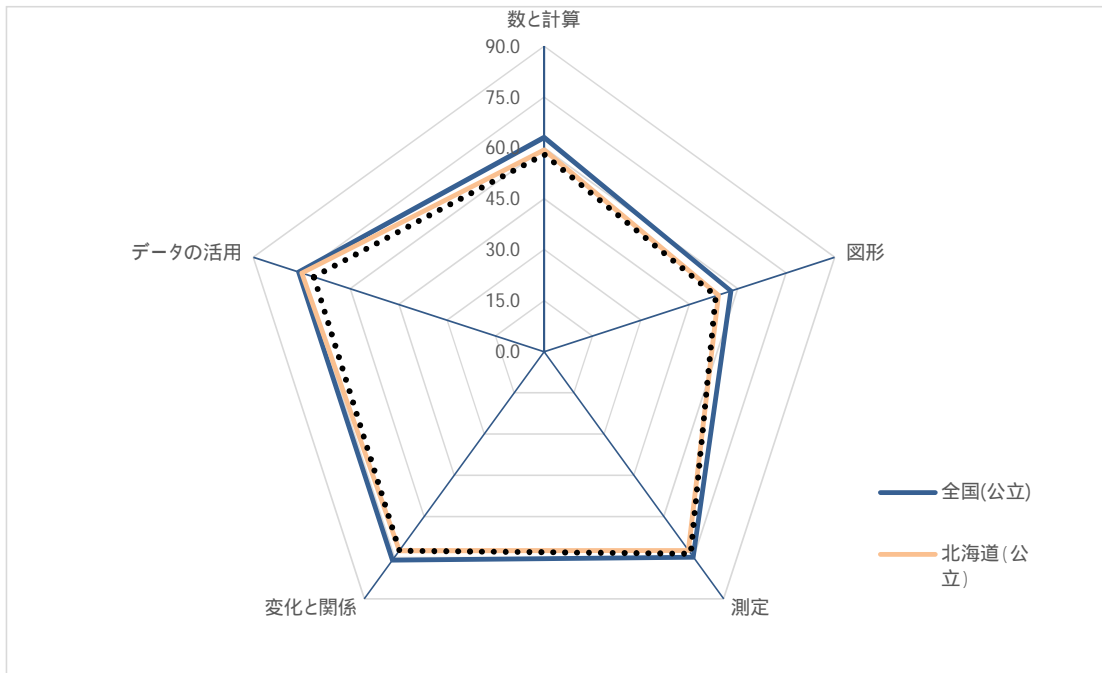
## 正答率の状況

	算数	
	平均正答数	平均正答率
全国(公立)	11.2問/16問	70.2%
全道(公立)	10.8問/16問	67.5%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い
石狩市 :									
全国 :									

相当高い ... 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様(下位) ... -1ポイント以下 - 3ポイント未満の範囲内
高い ... 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い ... -3ポイント以下 - 5ポイント未満の範囲内
やや高い ... 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低い ... -5ポイント以下 - 7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様(上位) ... 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内	相当低い ... -7ポイント以下の範囲
同様 ... ±1ポイント未満の範囲内	

## 算数 領域等の平均正答率の状況



## 算数科の概要

算数の平均正答率は、全道とほぼ同様(下位)で、全国よりやや低い結果でした。令和元年度との比較では、全国との差はやや縮まりました。

領域別では、「数と計算」で全道とほぼ同様(下位)で全国より低く、「図形」で全道と同様で全国よりやや低い結果でした。また、「測定」では全道とほぼ同様(上位)で全国とほぼ同様(下位)、「変化と関係」では、全道と同様で全国よりやや低く、「データの活用」では全道・全国よりやや低い結果でした。

問題形式の正答率では、「選択式」で全道とほぼ同様(下位)で全国よりやや低く、「短答式」が全道と同様で全国よりやや低い結果でした。また、「記述式」は全道よりやや低く全国より相当低い結果となりました。

## 算数

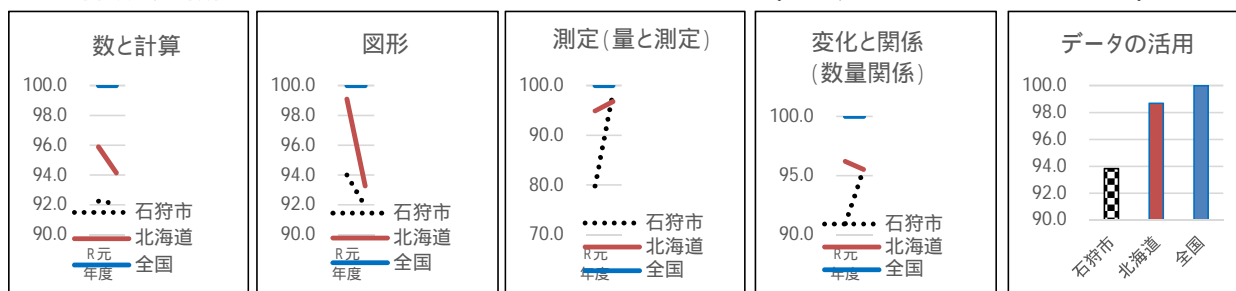
### 調査問題の内容

学習指導要領における「数と計算」、「図形」、「測定」、「変化と関係」、「データの活用」の各領域に示された指導内容をバランスよく出題しています。なお、小学校第5学年までの内容となっています。

(例)

- ・二つのコースの道のりの差の求め方と答えを書く。
- ・直角三角形を組み合わせた図形の面積について分かることを選ぶ。
- ・500mを歩くのに7分間かかることを基に、1000mを歩くのにかかる時間を書く。
- ・「114」は二次元の表のどこに入るかを選ぶ。
- ・設問数は16問です。

【各領域の傾向】 グラフは全国を100とした前回調査との比較(但し、データの活用は本年度のみ)



- ・「数と計算」の領域は、全道とほぼ同様(下位)で、全国よりやや低い傾向を示しています。
- ・「図形」の領域は、全道と同様で、全国よりやや低い傾向にあります。
- ・「測定」の領域は、全道とほぼ同様(上位)で、全国とほぼ同様(下位)の傾向にあります。
- ・「変化と関係」の領域は、全道と同様で、全国よりやや低い傾向を示しています。
- ・「データの活用」の領域は、全道・全国よりやや低い傾向を示しています。

### 【成果の見られる問題例】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
1(2)	500mを歩くのに7分間かかることを基に、1000mを歩くのにかかる時間を書く	速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察することができる	変化と関係	87.6%	85.8%	86.7%
1(4)	午後1時35分から50分後の時刻を書く	条件に合う時刻を求めることができる	測定	87.2%	87.9%	89.2%
3(1)	・6年生の本の貸し出し冊数を、棒グラフから読み取って選ぶ	棒グラフから、数量や項目間の関係を読み取ることができる	データの活用	94.6%	95.1%	95.8%
3(2)	・学年ごとの本の貸し出し冊数について、棒グラフから分かることを選ぶ			89.1%	89.2%	90.7%

### 【課題の見られる設問例】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
2(3)	二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを書く	複数の図形を組み合わせた図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述できる	図形	39.8%	43.6%	46.0%
3(4)	帯グラフから、割合の違いが一番大きい項目を選び、その項目と割合を書く	帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述できる	データの活用	43.7%	49.8%	52.0%

4 ( 3 )	30mを1としたときに12mが0.4に当たるわけを書く	小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準数を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述できる	数と計算	41.3%	46.7%	51.5%
---------	-----------------------------	--	------	-------	-------	-------

### 【指導の改善にあたって】

#### 【問題番号2 ( 3 ) 図形】

・本問では、図形を構成する要素などに着目し、面積を求めようとする図形の辺の長さや底辺と高さの関係を捉え、面積の求め方について筋道を立てて説明できることが求められています。指導に当たっては、面積のために、必要な情報を図形から選び出す活動などを取り入れることが考えられます。

#### 【問題番号3 ( 4 ) データの活用】

・本問では、帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を示された図形の求め方を記述することが求められています。指導に当たっては、身の回りの事象について、その事象の因果関係や傾向を漠然と捉えるだけでなく、データに基づいて判断する統計的な問題解決の方法を知り、その方法で考察していくことができるようにすることが重要です。その際、目的に応じて、データを集め、観点を決めて分類整理し、表やグラフからデータの特徴や傾向を読み取ることができるようにすることが大切です。

#### 【問題番号4 ( 3 ) 数と計算】

・本問では、小数を用いた倍についての説明を解釈し、他の数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述することが求められています。指導に当たっては、整数を用いた倍の意味を捉え直し、小数を用いた倍についても、基準量を1としたときに比較量が幾つに当たるかという意味について理解できるようにすることが重要です。その際、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目できるようにすることが大切です。

### 【教科（算数）に関する意識（児童質問紙項目52～60より）】

(52)	「算数の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道の65.0%、全国の67.8%に対して石狩市は、66.0%で、全道より1.0ポイント高く、全国より1.8ポイント低くなっています。
(53)	「算数の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の93.5%、全国の93.8%に対して石狩市は93.8%で、全道より0.3ポイント高く、全国と同様となっています。
(54)	「算数の授業の内容はよくわかりますか」に対する肯定的な回答は、全道の82.8%、全国の84.6%に対して石狩市は86.3%で、全道より3.5ポイント、全国より1.7ポイント高くなっています。
(55)	「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の92.1%、全国の92.6%に対して石狩市は93.6%で、全道より1.5ポイント、全国より1.0ポイント高くなっています。
(56)	「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」に対する肯定的な回答は、全道の71.7%、全国の73.9%に対して石狩市は73.4%で、全道より1.7ポイント高く、全国より0.5ポイント低くなっています。
(57)	「算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか」に対する肯定的な回答は、全道の81.6%、全国の82.7%に対して石狩市は85.7%で、全道より4.1ポイント、全国より3.0ポイント高くなっています。
(58)	「算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか」に対する肯定的な回答は、全道の89.6%、全国の89.0%に対して石狩市は93.2%で、全道より3.6ポイント、全国より4.2ポイント高くなっています。
(59)	「算数の授業で問題の解き方や考えが分かるようにノートに書いていますか」に対する肯定的な回答は、全道・全国の91.9%に対して石狩市は93.2%で、全道・全国より1.3ポイント高くなっています。
(60)	「今回の算数の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありましたが、どのように解答しましたか」について「最後まで努力した」との回答は、全道の78.0%、全国の79.9%に対して石狩市は77.3%で、全道より0.7ポイント低く、全国より2.6ポイント低くなっています。関連して、4問あった記述式問題の無解答率の平均は、全道の7.9%、全国の6.7%に対して石狩市は5.5%で、全道より2.4ポイント、全国より1.2ポイント低くなっています。

# 令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果分析

【中学校 国語】

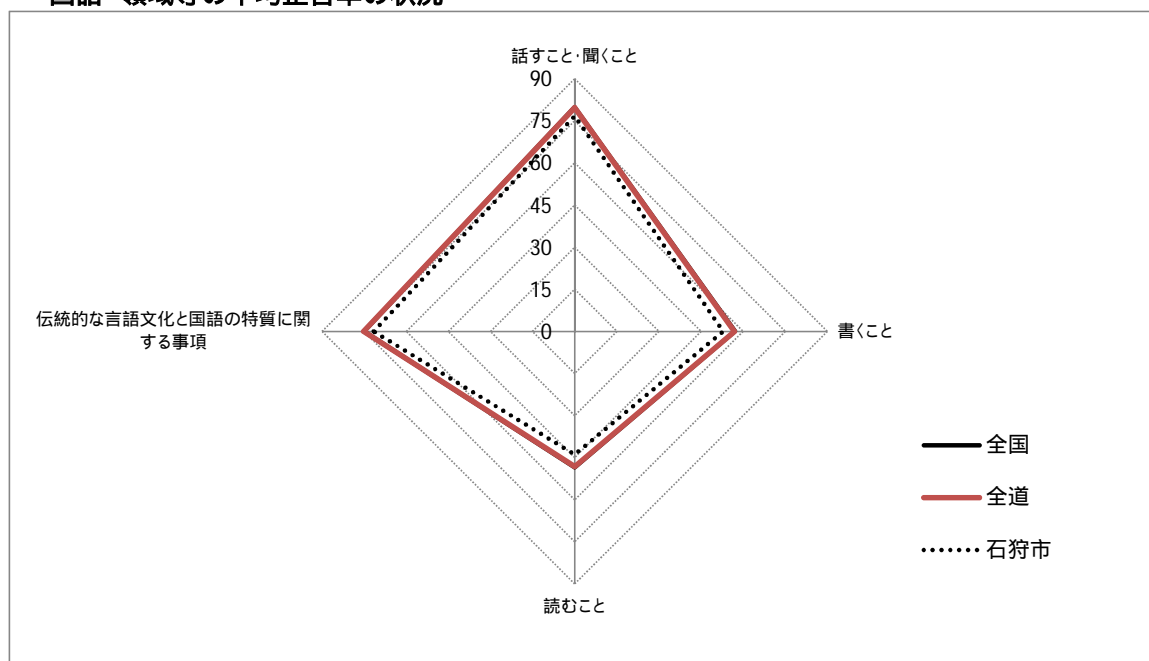
## 正答率の状況

	国語	
	平均正答数	平均正答率
全国(公立)	9.0問/14問	64.6%
全道(公立)	9.0問/14問	64.5%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い
石狩市 :									
全国 :									

相当高い ... 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様(下位) ... - 1ポイント以下 - 3ポイント未満の範囲内
高い ... 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い ... - 3ポイント以下 - 5ポイント未満の範囲内
やや高い ... 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低い ... - 5ポイント以下 - 7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様(上位) ... 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内	相当低い ... - 7ポイント以下の範囲
同様 ... ±1ポイント未満の範囲内	

## 国語 領域等の平均正答率の状況



## 国語科の概要

国語の正答率は全道・全国より、やや低い結果となりました。一昨年度との比較では、問題数が4問増え14問となりました。平均正答率の比較では全国との差は縮まりました。

領域別では、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の四領域ともに全道・全国よりもやや低い結果となりました。

問題形式別の正答率では、「選択式」は全道・全国とほぼ同様(下位)、「短答式」は全道・全国よりやや低く、「記述式」は全道・全国より低い結果となりました。

## 国語

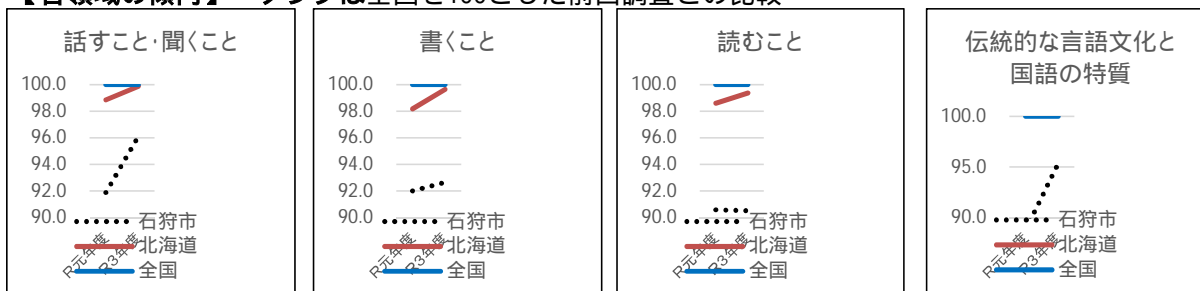
### 調査問題の内容

学習指導要領に示されている「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に基づいて、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題されています。なお、中学校第2学年までの内容となっています。

(例)

- ・参加者の誰がどのようなことについて発言するとよいかと、そのように考えた理由を書く。
- ・意見文の下書きの構成の工夫について、自分の考えを書く。
- ・「吾輩」が「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしているかや、そのような接し方をどう思うかを書く。
- ・事前に確かめておきたいことについて相手に失礼のないように書く。
- ・問題数は14問です。

### 【各領域の傾向】 グラフは全国を100とした前回調査との比較



- ・「話すこと・聞くこと」の領域は全道・全国よりやや低い傾向を示しています。
- ・「書くこと」の領域は全道・全国よりやや低い傾向を示しています。
- ・「読むこと」の領域は全道・全国よりやや低い傾向を示しています。
- ・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域は、全道・全国よりやや低い傾向を示しています。

### 【成果の見られる問題例】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
1一	話し合いでの司会者の発言の役割について説明したものと適切なものを選択する	話し合いの話題や方向を捉える	話すこと 聞くこと	89.0%	90.2%	89.7%
1二	話し合いでの発言について説明したものと適切なものを選択する	質問の意図を捉える	話すこと 聞くこと	90.5%	92.3%	92.5%
4一	漢字を読む(伸ばして)	文脈に即して漢字を正しく読む	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	98.1%	97.7%	97.5%
4一	漢字を読む(詳細)			87.4%	90.1%	88.8%

### 【課題の見られる問題例】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
2一	意見文の下書きを直した意図として適切なものを選択する	書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く	書くこと	23.0%	24.5%	24.8%
3四	「吾輩が」が「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしているかや、そのような接し方をどう思うか書く	文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えを持つ	読むこと	13.0%	18.4%	20.5%

**【指導の改善にあたって】**

**【問題番号 2 一 書くこと】**

目的や意図に応じて、読みやすく分かりやすい文章にするためには、読み手の立場に立って文章を整える必要があります。その際、表記や語句の用法、叙述の仕方、表現の効果などを確かめるように指導することが大切です。

**【問題番号 3 四 読むこと】**

文学的な文章を読んで自分の考えをもつためには、「構造と内容の把握」や「精査・解釈」の学習過程を通して理解したことを他者に説明したり、他者の考えやその根拠などを知ったりするように指導する必要があります。その上で、改めて自分が文章をどのように捉えて精査・解釈したのかを振り返ることで自分の考えを確かなものにするように指導することが大切です。

**【教科（国語）に関する意識（生徒質問紙項目43～51より）】**

(43)	「国語の勉強は好きですか」についての肯定的な回答は、全道の61.4%、全国の60.8% に対して石狩市は、52.4%で全道より9.0ポイント、全国より8.4ポイント低くなっています。
(44)	「国語の勉強は大切だと思いますか」についての肯定的な回答は、全道の90.8%、全国の91.6% に対して石狩市は92.3% で、全道より1.5ポイント、全国より0.7ポイント高くなっています。
(45)	「国語の授業内容はよく分かりますか」についての肯定的な回答は、全道の81.0%、全国の80.1% に対して石狩市は78.6% と、全道より2.4ポイント低く、全国より1.5ポイント低くなっています。
(46)	「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」についての肯定的な回答は全道の88.0%、全国の88.7% に対して石狩市は91.1% で、全道より3.1ポイント、全国より2.4ポイント高くなっています。
(47)	「国語の授業では、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりしていますか」についての肯定的な回答は、全道の81.1%、全国の81.8% に対して石狩市は78.4% で、全道より2.7ポイント、全国より3.4ポイント低くなっています。
(48)	「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしていますか」についての肯定的な回答は、全道の56.7%、全国の61.3% に対して石狩市は46.6% で、全道より10.1ポイント、全国より14.7ポイント低くなっています。
(49)	「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり表現を工夫して書いたりしていますか」についての肯定的な回答は、全道の73.7%、全国の74.6% に対して石狩市は68.8% と、全道より4.9ポイント、全国より5.8ポイント低くなっています。
(50)	「国語の授業では、目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりしていますか」についての肯定的な回答は、全道の73.7%、全国の74.6% に対して石狩市は68.8% と、全道より4.9ポイント、全国より5.8ポイント低くなっています。
(51)	「今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、どのように解答しましたか」について、「最後まで努力した」との回答は、全道の72.3%、全国の73.7% に対して石狩市は63.2% と、全道より9.1ポイント、全国より10.5ポイント低くなっています。関連して、4問あった記述式問題の無解答率の平均は、全道の11.9%、全国の11.4%に対して石狩市は15.7%で、全道より3.8ポイント、全国より4.3ポイント高くなっています。

# 令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果分析

【中学校 数学】

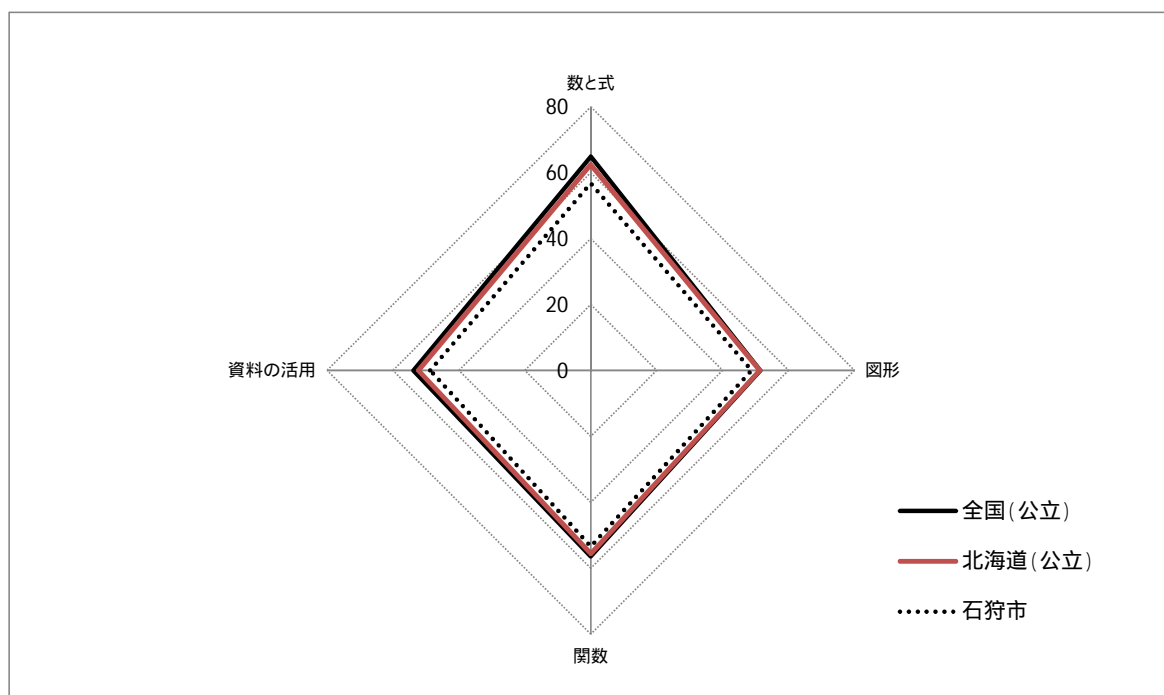
## 正答率の状況

	数学	
	平均正答数	平均正答率
全国(公立)	9.1問/16問	57.2%
全道(公立)	8.9問/16問	56.0%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い
石狩市 :									
全国 :									

相当高い ... 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様(下位) ... -1ポイント以下 - 3ポイント未満の範囲内
高い ... 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い ... -3ポイント以下 - 5ポイント未満の範囲内
やや高い ... 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低い ... -5ポイント以下 - 7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様(上位) ... 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内	相当低い ... -7ポイント以下の範囲
同様 ... ±1ポイント未満の範囲内	

## 数学 領域等の平均正答率の状況



## 数学科の概要

数学の平均正答率は、全道よりやや低く、全国より低い結果でした。一昨年度との比較では、問題数は16問で同様でした。平均正答率の比較では全国との差は縮まりました。

領域別では「数と式」は全道より低く、全国より相当低い結果でした。「図形」は全道・全国とほぼ同様(下位)であり、「関数」は全道とほぼ同様(下位)で、全国よりやや低い結果でした。「資料の活用」は全道よりやや低く、全国より低い結果でした。

問題形式別では「選択式」「短答式」「記述式」ともに全道・全国よりやや低い結果でした。



## 数学

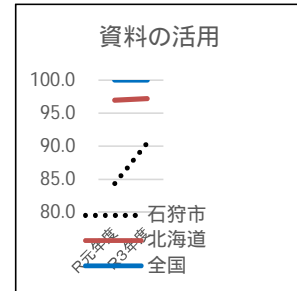
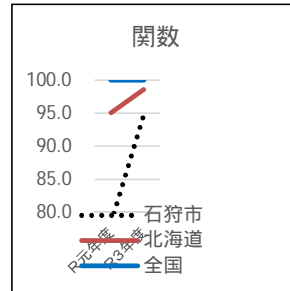
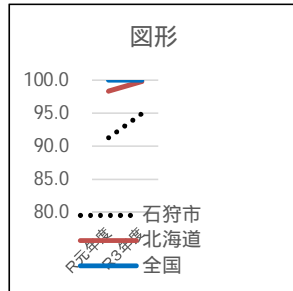
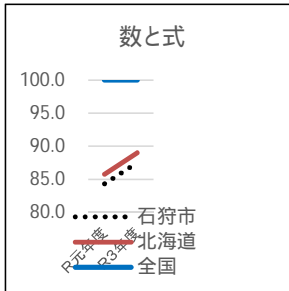
### 調査問題の内容

学習指導要領における、「数と式」、「図形」、「関数」、「資料の活用」の各領域に示された指導内容をバランスよく出題しています。なお、中学校第2学年までの内容となっています。

(例)

- ・数量の関係を一元一次方程式で表す。
- ・四角で四つの数を囲むとき、四つの数の和はいつでも4の倍数になることの説明を完成する。
- ・四角形A B C Eが平行四辺形になることを、平行四辺形になるための条件を用いて説明する。
- ・与えられた表やグラフを用いて、2分をはかるために必要な砂の重さを求める方法を説明する。
- ・二つの分布の傾向を比べるために相対度数を用いること的前提となっている考えを選ぶ。
- ・「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する。
- ・問題数は16問です。

### 【各領域の傾向】



- ・「数と式」の領域は、全道より低く、全国より相当低い傾向を示しています。
- ・「図形」の領域は、全道・全国とほぼ同様（下位）の傾向を示しています。
- ・「関数」の領域は、全道とほぼ同様（下位）で、全国よりやや低い傾向を示しています。
- ・「資料の活用」の領域は、全道よりやや低く、全国より低い傾向を示しています。

### 【成果の見られる問題例】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
5	反復横とびの記録の中央値を求める	与えられたデータから中央値を求めることができる	資料の活用	81.8%	84.6%	84.5%
7(1)	与えられた表やグラフから、砂の重さが75gのときに、砂が落ちるまでの時間が36.0秒であったことを表す点を求める	与えられた表やデータから、必要な情報を適切に読み取ることができる	関数	92.8%	93.3%	93.5%

### 【課題の見られる問題例】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
6(3)	四角で4つの数を囲むとき、四角で囲んだ4つの数の和がどの位置にある2つの数の和の2倍であるかを説明する	数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができる	数と式	26.7%	30.1%	30.3%
7(2)	与えられた表やグラフを用いて、2分をはかるために必要な砂の重さを求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる	関数	20.9%	27.3%	27.7%
9(3)	ARGやASGの大きさについていつでもいえることを書く	ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現することができる	図形	30.0%	28.6%	28.8%



### 【無解答率の高い問題例】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	石狩市		全道		全国	
				正答率	無解答率	正答率	無解答率	正答率	無解答率
8(3)	日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる	資料の活用	5.0%	41.0%	8.9%	35.8%	11.1%	32.2%

### 【指導の改善にあたって】

<p><b>【問題番号6(3) 数と式】</b>            数の性質について成り立つ事柄を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明できるように指導することが大切です。この設問を使って授業を行う際には、自然数を五つずつに区切った表を六つずつに区切った表に変えて、四角で四つの数で囲むとき、四角で囲んだ四つの数の和は、2の倍数になることを見だし、どんな数の2倍になるか説明する活動を設定することが考えられます。</p>
<p><b>【問題番号7(2) 関数】</b>            日常的な事象における伴って変わる二つの数量について、観察や操作、実験などの活動から得られたデータを、表やグラフに表現することを通して、その二つの数量関係を捉えることができるように指導することが大切です。その際、表されたグラフや表のもつ性質を利用して関係を見いだす活動を取り入れることが考えられます。</p>
<p><b>【問題番号9(3) 図形】</b>            条件を保ったまま動かした図形を観察し、辺や角について変わらない性質を見いだす活動を取り入れ、ある条件の下でいつも成り立つ性質や関係を捉え、数学的に表現することができるように指導することが大切です。</p>
<p><b>【問題番号8(3) 資料の活用】</b>            データの分布の様子を捉える場面を設定し、データの傾向を的確に捉えて判断できるように指導することが大切です。この設問を使って授業を行う際には、「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にあるかどうか」について、データの分布の比較から検討し、判断する場面を設定することが考えられます。その際、作った二つの度数分布多角形における分布の特徴について話し合うことが考えられます。</p>

### 【教科（数学）に関する意識（生徒質問紙項目52～60より）】

(52)	「数学の勉強は好きですか」についての肯定的な回答は、全道の55.4%、全国の59.1% に対して石狩市は、64.4%で全道より9.0ポイント、全国より5.3ポイント高くなっています。
(53)	「数学の勉強は大切だと思いますか」についての肯定的な回答は、全道の82.8%、全国の84.1% に対して石狩市は83.8% で、全道より1.0ポイント高く、全国より0.3ポイント低くなっています。
(54)	「数学の授業内容はよく分かりますか」についての肯定的な回答は、全道の72.4%、全国の74.6% に対して石狩市は76.3% と、全道より3.9ポイント、全国より1.7ポイント高くなっています。
(55)	「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」についての肯定的な回答は、全道の72.5%、全国の74.6% に対して石狩市は75.6% で、全道より3.1ポイント高く、全国より1.0ポイント高くなっています。
(56)	「数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」についての肯定的な回答は、全道の45.2%、全国の50.6% に対して石狩市は47.2% で、全道より2.0ポイント高く、全国より3.4ポイント低くなっています。
(57)	「数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」について、「最後まで努力した」との回答は、全道の73.3%、全国の75.8% に対して石狩市は80.2%と、全道より6.9ポイント、全国より4.4ポイント高くなっています。
(58)	「数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか」についての肯定的な回答は、全道の83.7%、全国の83.5% に対して石狩市は90.2%と、全道より6.5ポイント、全国より6.7ポイント高くなっています。
(59)	「数学の授業で問題の解き方や考え方がわかるようにノートに書いていますか」についての肯定的な回答は、全道の87.9%、全国の86.6% に対して石狩市は86.3%と、全道より1.6ポイント、全国より0.3ポイント低くなっています。
(60)	「今回の数学の問題について、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありましたが、どのように解答しましたか」について、「最後まで努力した」との回答は、全道の54.5%、全国の57.8% に対して石狩市は52.4%と、全道より2.1ポイント、全国より5.4ポイント低くなっています。関連して、5問あった記述式問題の無解答率の平均は、全道の22.9%、全国の22.1%に対して石狩市は26.7%で、全道より3.8ポイント、全国より5.5ポイント高くなっています。

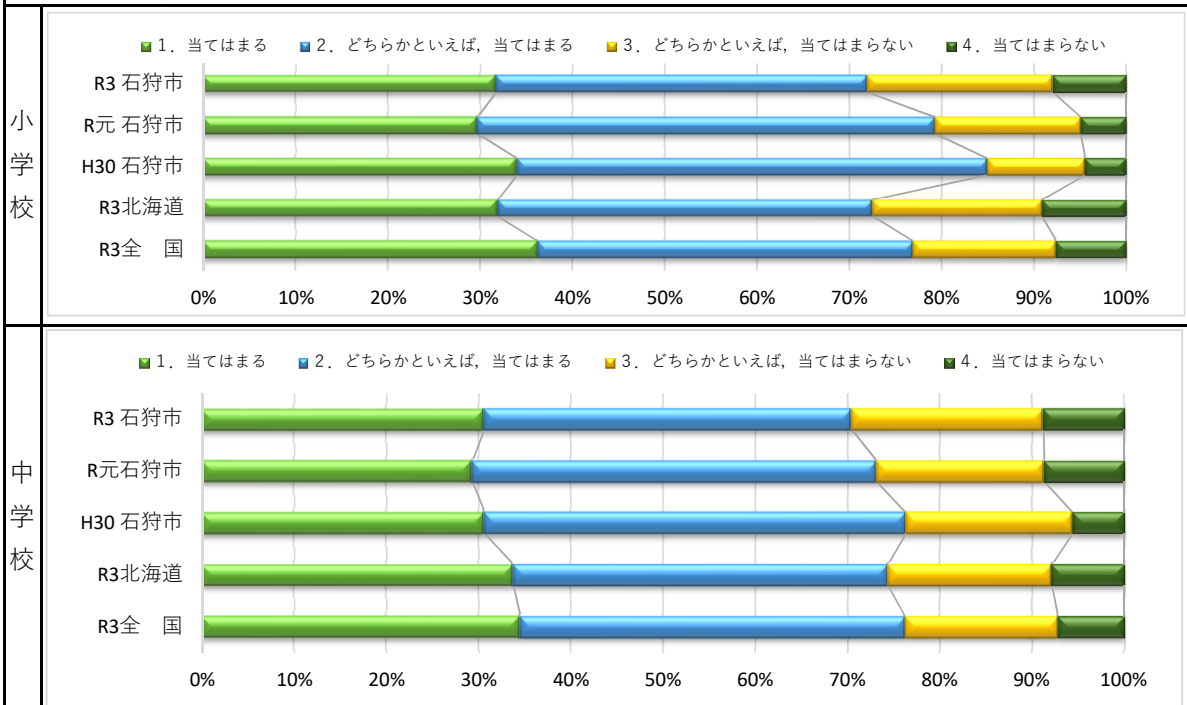
# 令和3年度 学習状況調査〔児童・生徒質問紙〕より

## I 自己肯定感・有用感・思いやり・公平公正

### 自己肯定感・有用感は、小学生・中学生ともに下降傾向

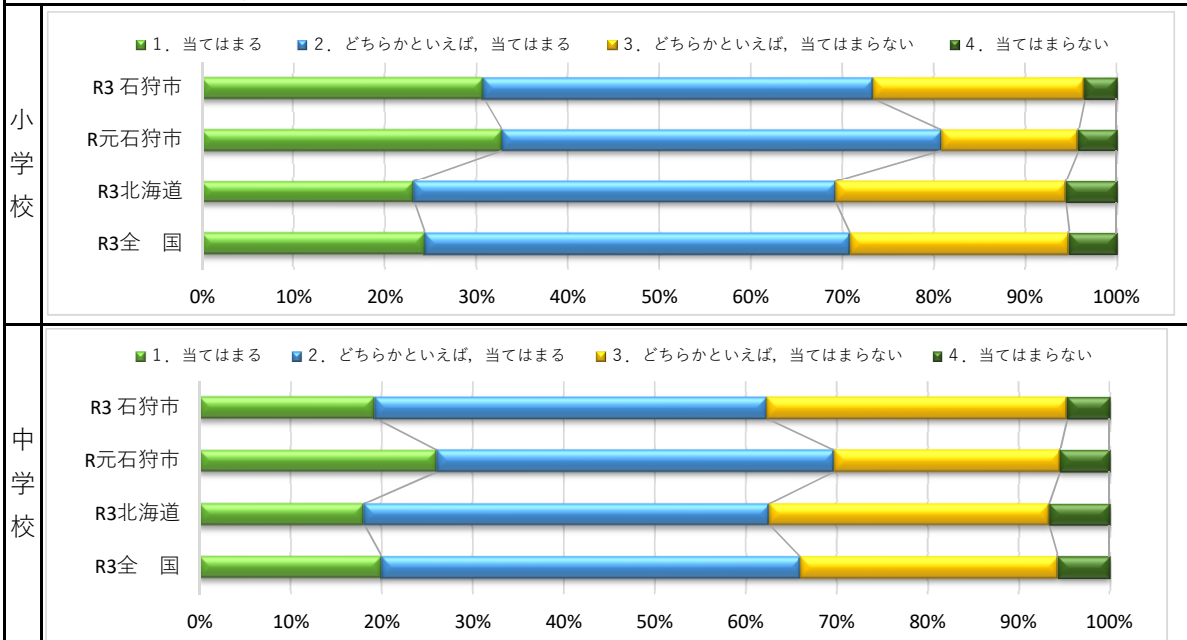
・「自分には、よいところがあると思う・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で72.0%(全国比-4.9ポイント, 全道比-0.6ポイント)で、中学生では70.5%(全国比-5.7ポイント, 全道比-4.0ポイント)でした。

#### 1. 自分には、よいところがあると思いますか



・「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していると思う・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で73.4%(全国比+2.5ポイント, 全道比+4.1ポイント)で中学生では62.3%(全国比-3.6ポイント, 全道比-0.3ポイント)でした。

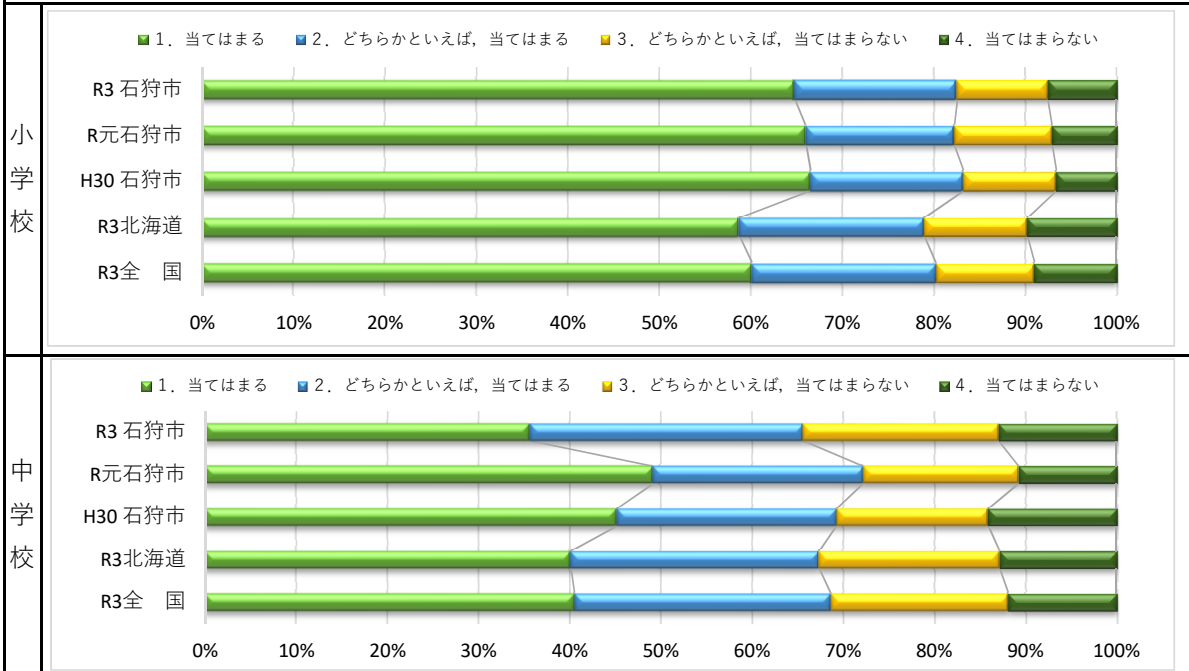
#### 2. 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか



### 将来に関する意識は、小学生は全道・全国を上回り、中学生はやや下回る傾向

・「将来の夢や目標を持っている・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で82.7%(全国比+2.4ポイント、全道比+3.7ポイント)で中学生では65.5%(全国比-3.1ポイント、全道比-1.8ポイント)でした。

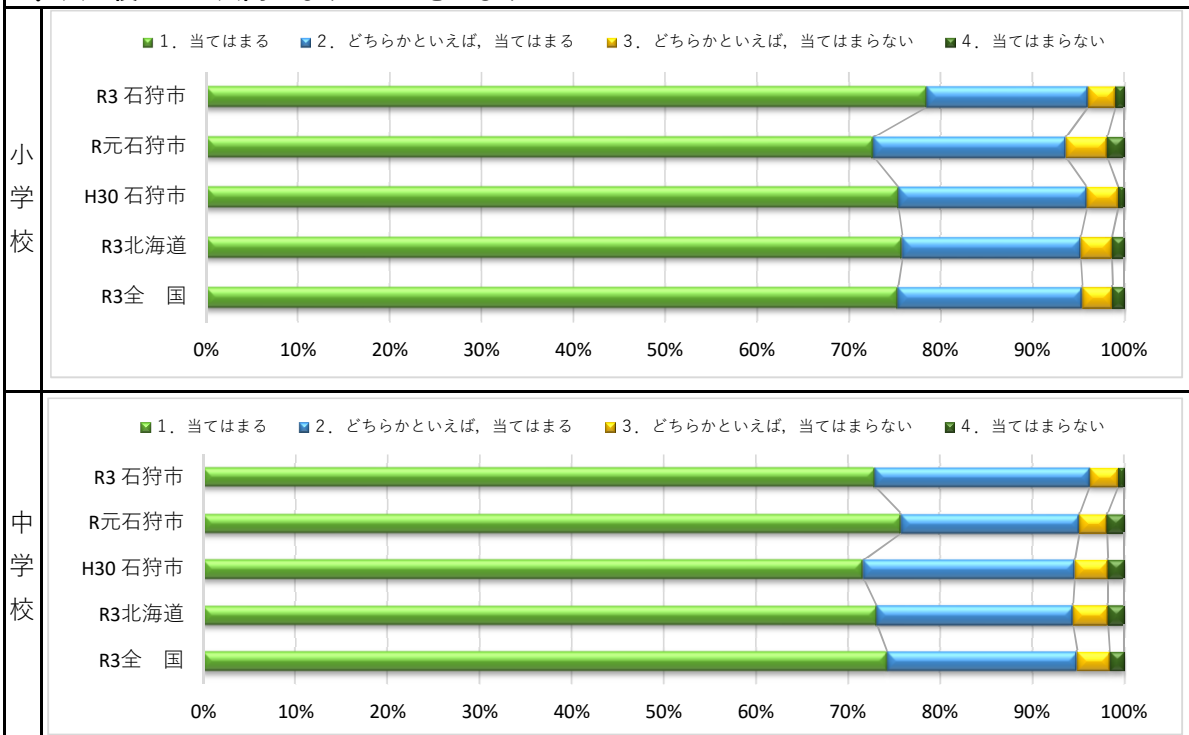
#### 3. 将来の夢や目標を持っていますか



### 人の役に立ちたいと思う小学生・中学生は全国とほぼ同様に9割超

・「人の役に立つ人間になりたいと思う・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で96.2%(全国比+0.7ポイント、全道比+0.9ポイント)で、中学生では96.3%(全国比+1.3ポイント、全道比+1.9ポイント)でした。

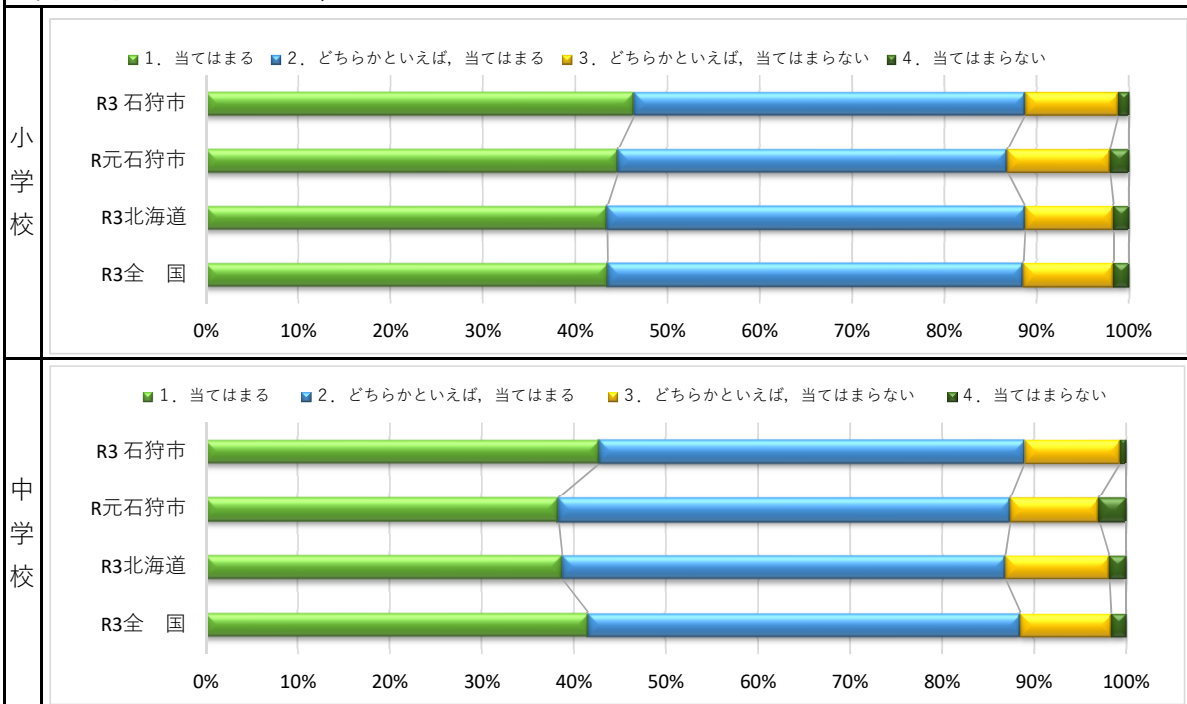
#### 4. 人の役に立つ人間になりたいと思いますか



## 思いやりについては、全道・全国とほぼ同様の傾向

・「人が困っているときは、進んで助けている・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で88.9%(全国比+0.2ポイント、全道比+0.1ポイント)で中学生では89.0%(全国比+0.5ポイント、全道比+2.2ポイント)でした。

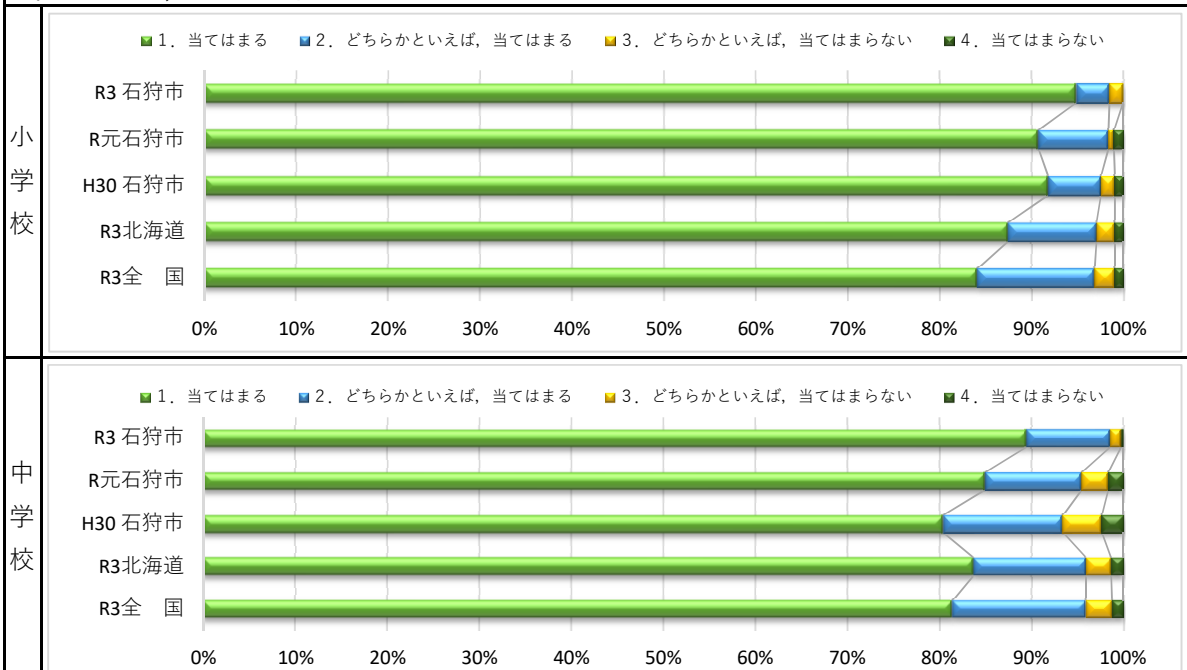
### 5. 人が困っているときは、進んで助けていますか



## いじめに対する意識は相当高いが、なお継続して取り組むべき課題

・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思ふ・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で98.5%(全国比+1.7ポイント、全道比+1.4ポイント)で、中学生では98.5%(全国比+2.6ポイント、全道比+2.6ポイント)でした。

### 6. いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

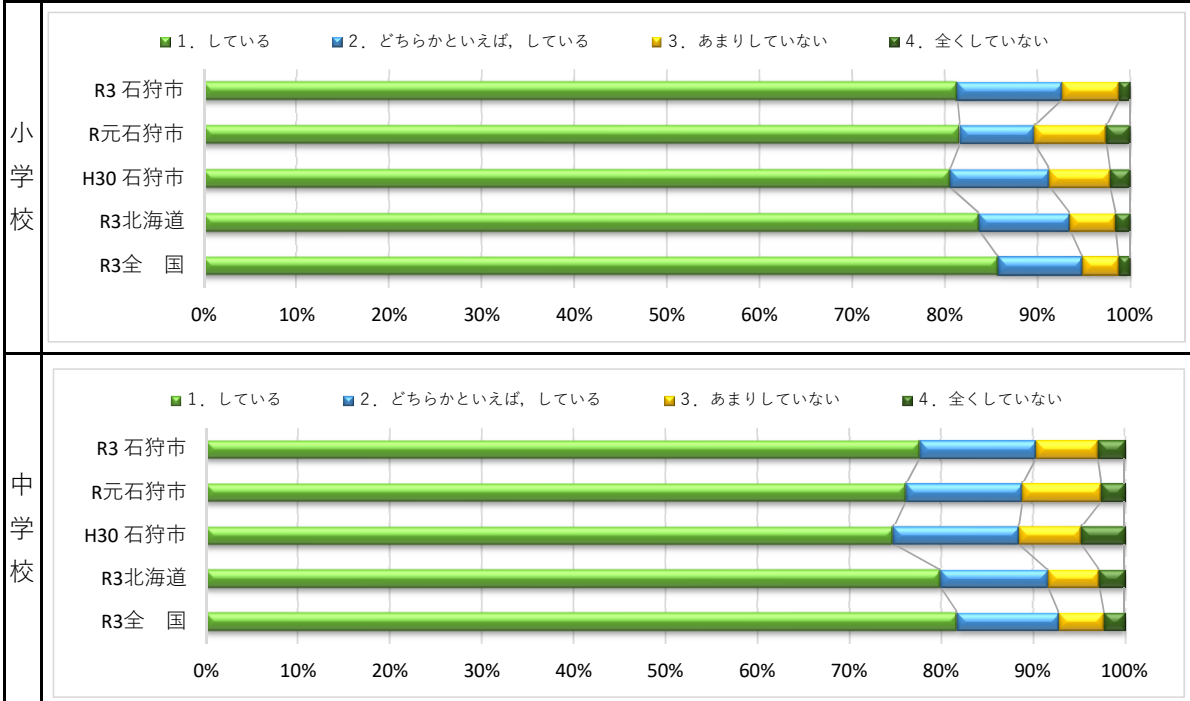


## II 基本的な生活習慣

### 朝食摂取習慣は全道・全国をやや下回る傾向、改善が求められる継続課題

・「朝食を毎日食べている・どちらかといえば食べている」割合は、小学生で92.7%（全国比-2.2ポイント、全道比-0.8ポイント）で、中学生では、90.5%（全国比-2.3ポイント、全道比-1.2ポイント）でした。

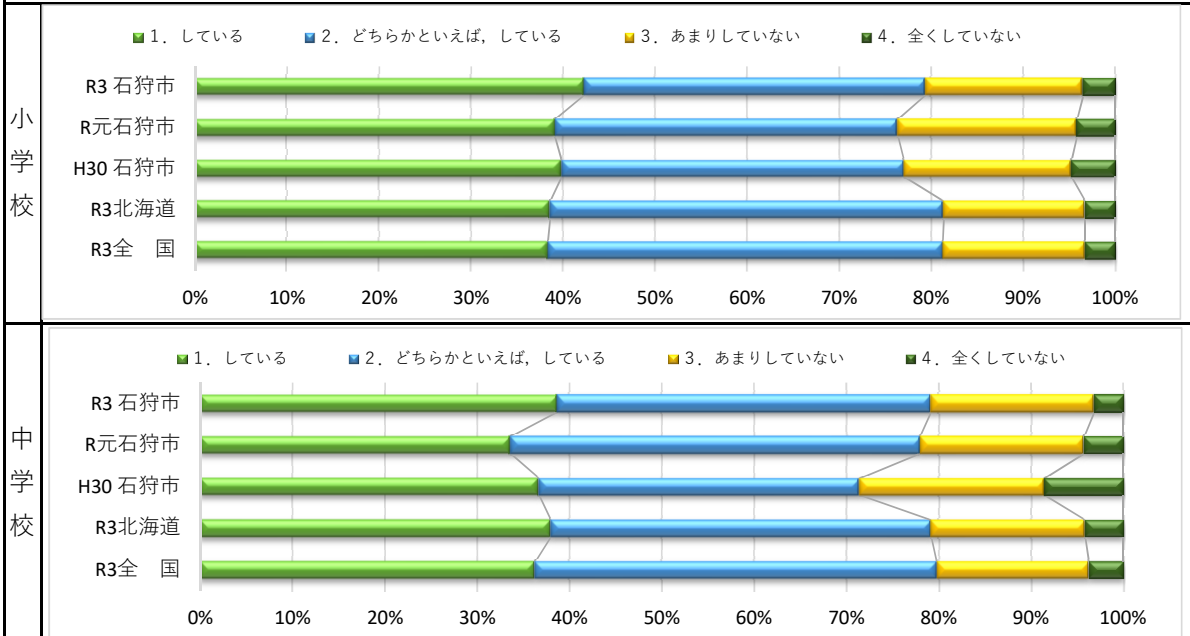
#### 7. 朝食を毎日食べていますか



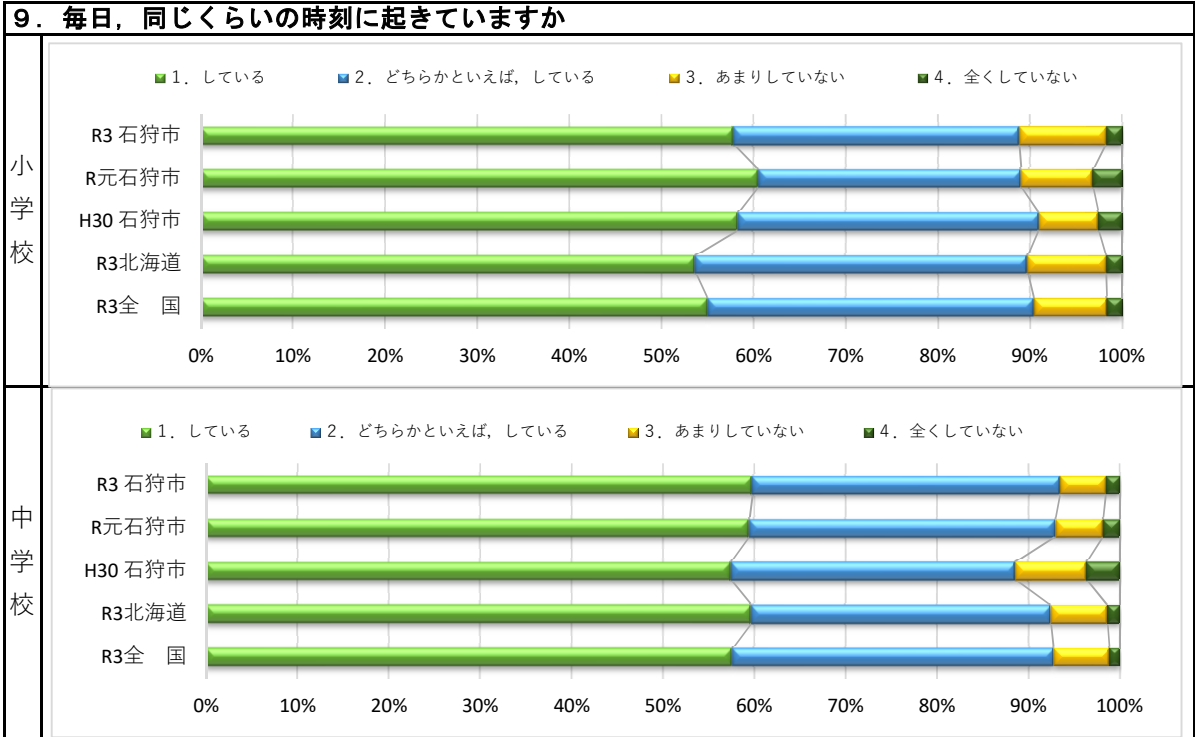
### 就寝・起床時刻等の生活リズムの定着は小学生にやや課題、中学生は改善傾向

・「毎日、同じくらいの時刻に寝ている・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で79.2%（全国比-2.0ポイント、全道比-2.2ポイント）で、中学生では、79.2%（全国比-0.6ポイント、全道比±0.0ポイント）でした。

#### 8. 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



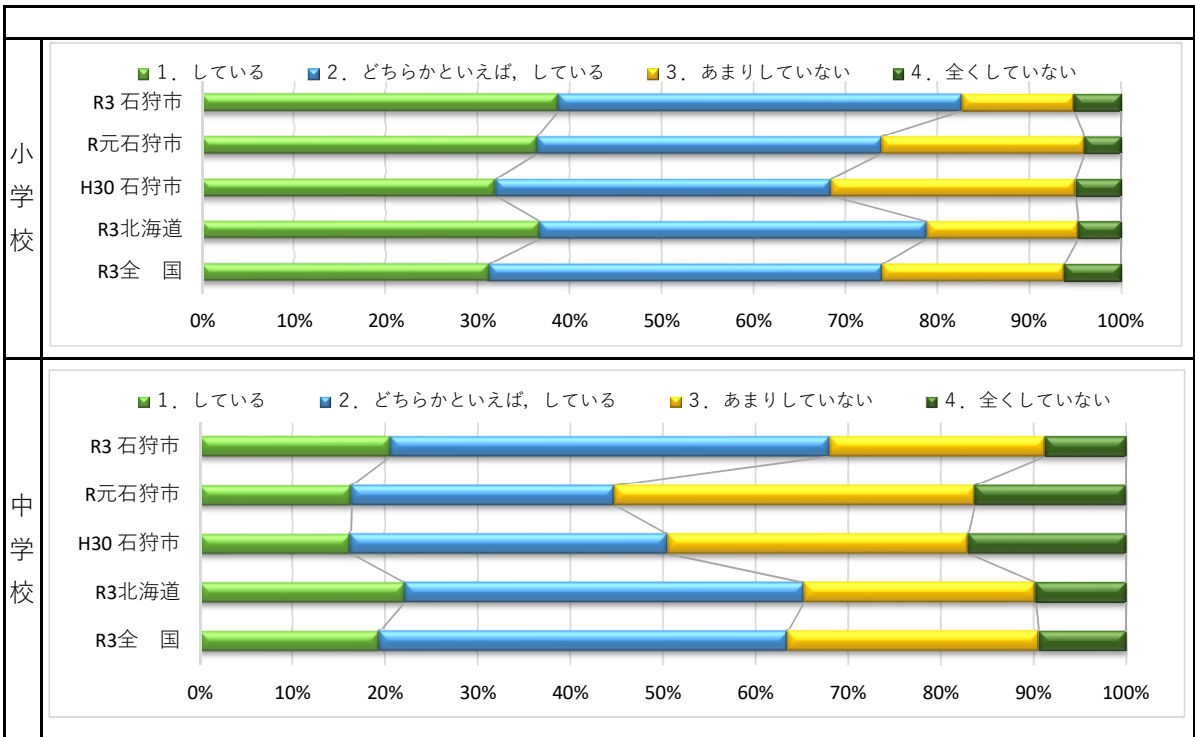
・「毎日、同じくらいの時刻に起きている・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で88.8%(全国比-1.6ポイント、全道比-1.1ポイント)で、中学生では、93.6%(全国比+0.9ポイント、全道比+1.2ポイント)でした。



### III 学習習慣・読書習慣

計画的な家庭学習は今年度、小学生・中学生ともに全道・全国を上回る傾向

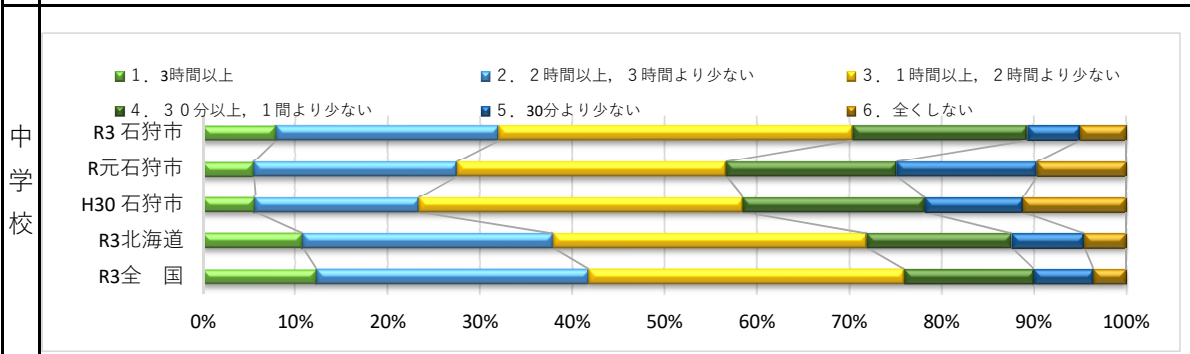
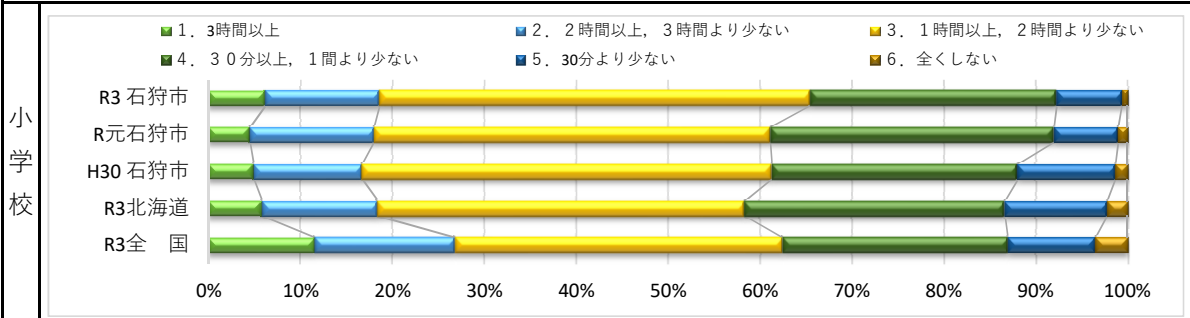
・「家で、自分で計画を立てて勉強をしている・どちらかといえばしている」割合は、小学生で82.7%(全国比+8.7ポイント、全道比+3.8ポイント)で、中学生では68.0%(全国比+4.5ポイント、全道比+2.8ポイント)でした。



**平日、家庭学習を1時間以上する割合は小学生・中学生ともに増加傾向**

・学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たり「1時間以上勉強する」と回答している小学生の割合は、65.5%(全国比+3.0ポイント、全道比+7.2ポイント)で、1日当たり「1時間以上勉強する」と回答している中学生の割合は70.3%(全国比-5.6ポイント、全道比-1.6ポイント)でした。

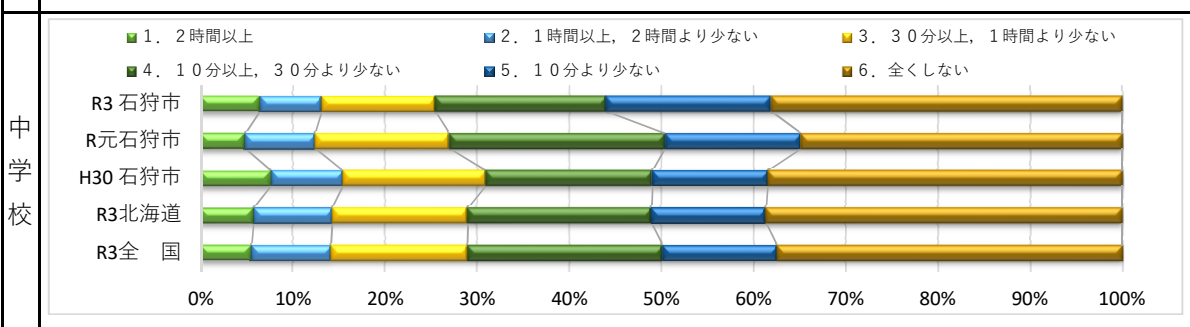
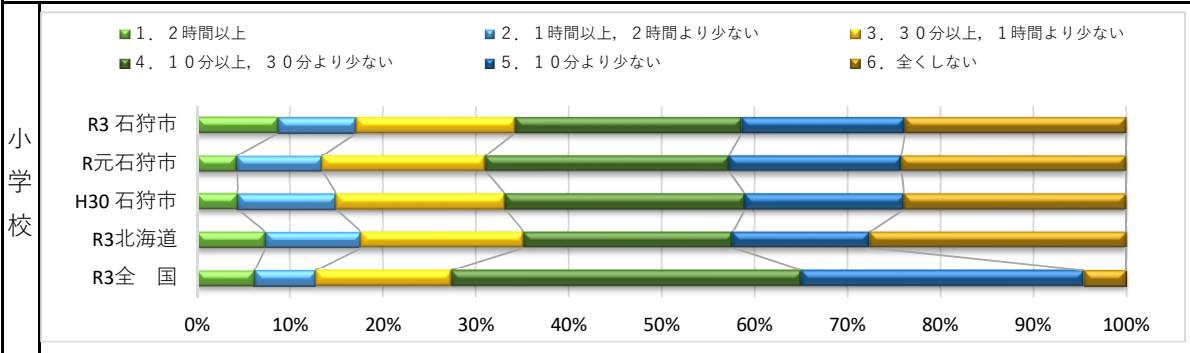
**1 1. 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)**



**30分以上読書する小学生は約3割, 中学生3割以下で課題**

・学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たり「30分以上読書をする」割合は、小学生で34.3%(全国比+6.9ポイント、全道比-0.9ポイント)で、中学生では、25.4%(全国比-3.5ポイント、全道比-3.5ポイント)でした。

**1 2. 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書, 漫画や雑誌除く)**

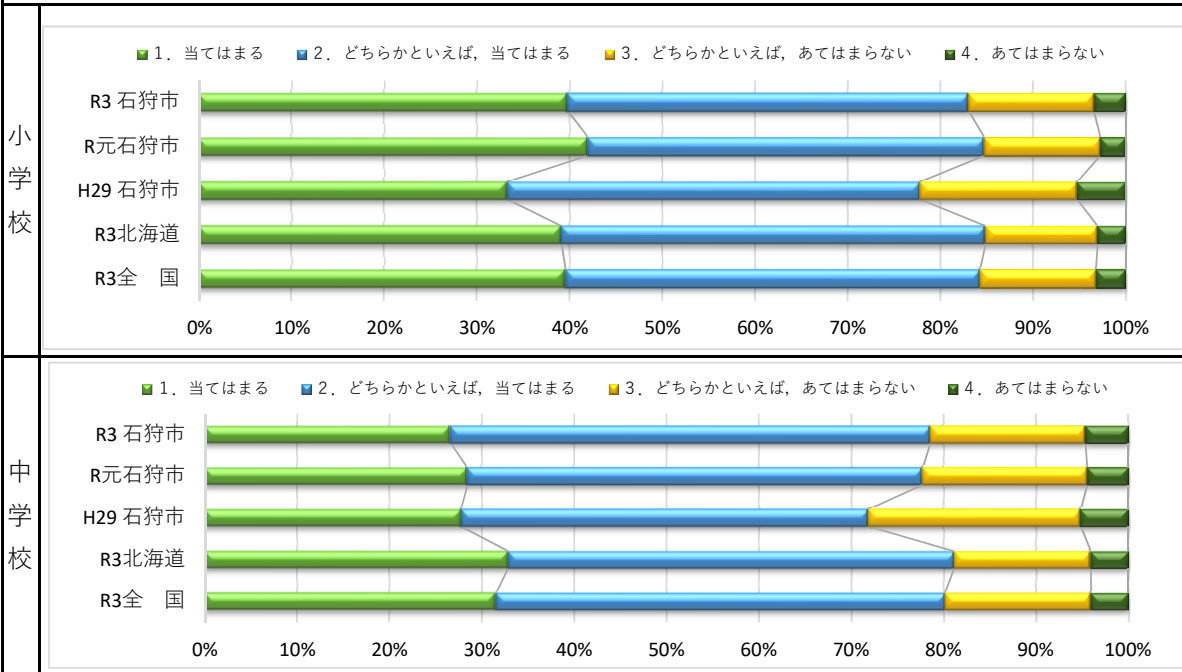


#### IV 学習に対する興味・関心や理解度等

##### 「国語の授業内容が分かる」小中学生は、ともに全道・全国とほぼ同様

・「国語の授業の内容がよく分かる・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で83.1%(全国比-1.1ポイント、全道比-1.8ポイント)で、中学生では78.6%(全国比-1.5ポイント、全道比-2.4ポイント)でした。

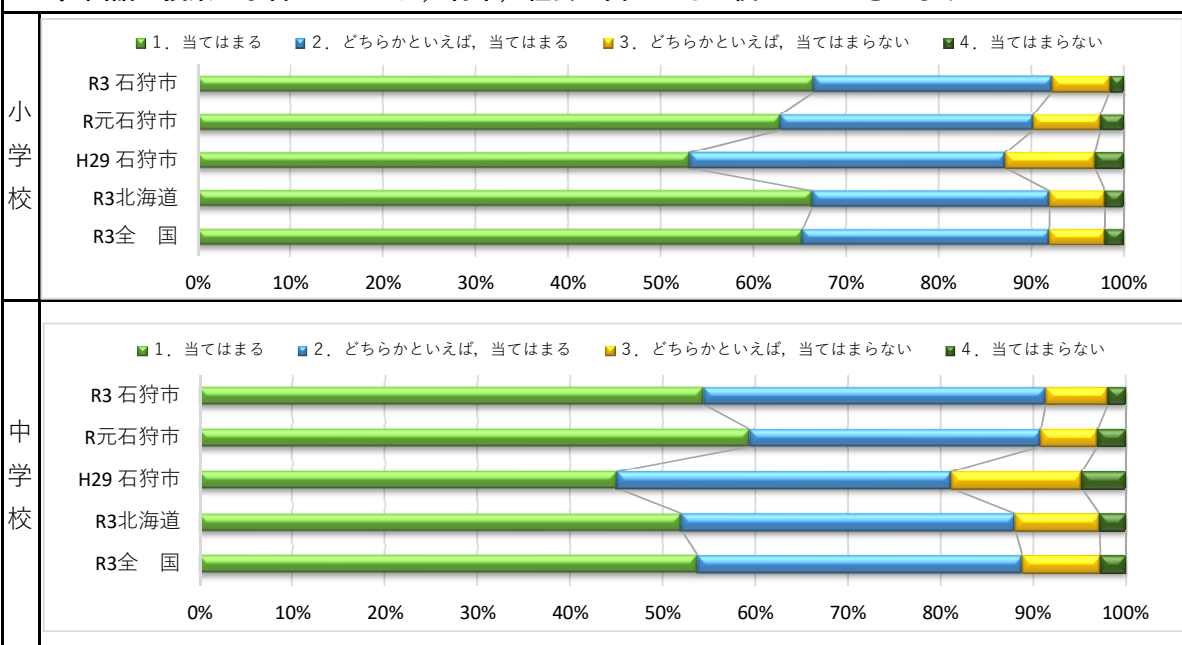
#### 1 3. 国語の授業の内容はよく分かりますか



##### 「国語の学習は将来、役に立つ」と思う小学生・中学生ともに9割超

・「国語の授業で学習したことは将来、社会に出たときに役に立つ・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で92.3%(全国比+0.5ポイント、全道比+0.3ポイント)で、中学生では91.1%(全国比+2.4ポイント、全道比+3.1ポイント)でした。

#### 1 4. 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

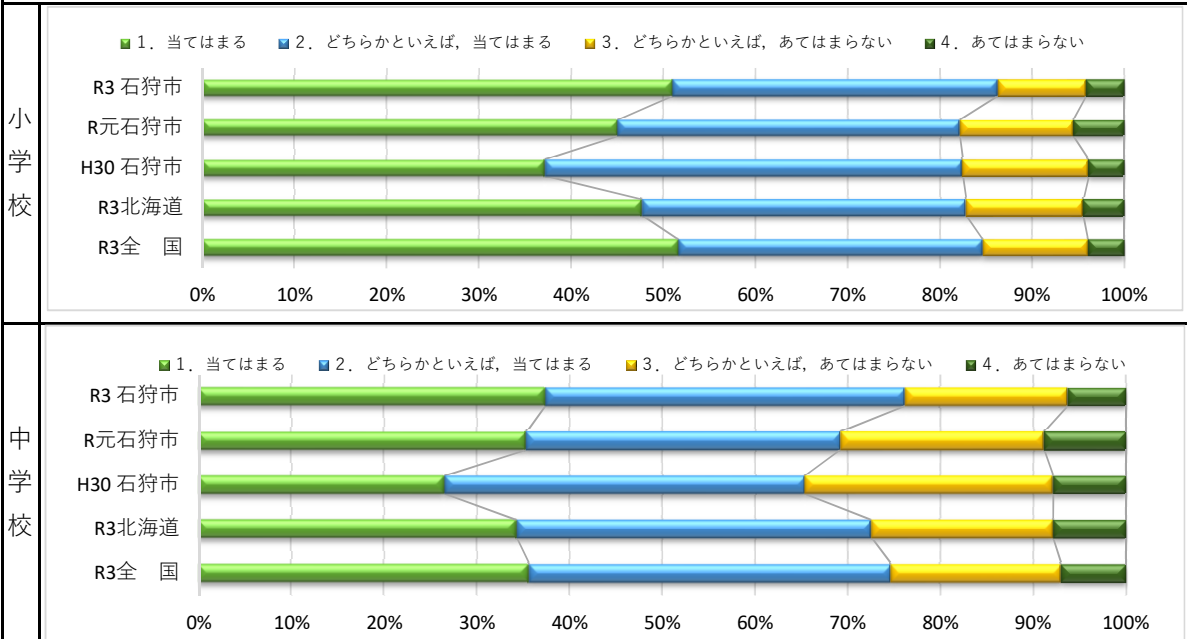




**「算数・数学の授業内容が分かる」小中学生は増加傾向で、ともに全国とほぼ同様**

・「算数・数学の授業の内容がよく分かる・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で86.3%(全国比+1.7ポイント, 全道比+3.5ポイント)で、中学生では76.3%(全国比+1.7ポイント, 全道比+3.9ポイント)でした。

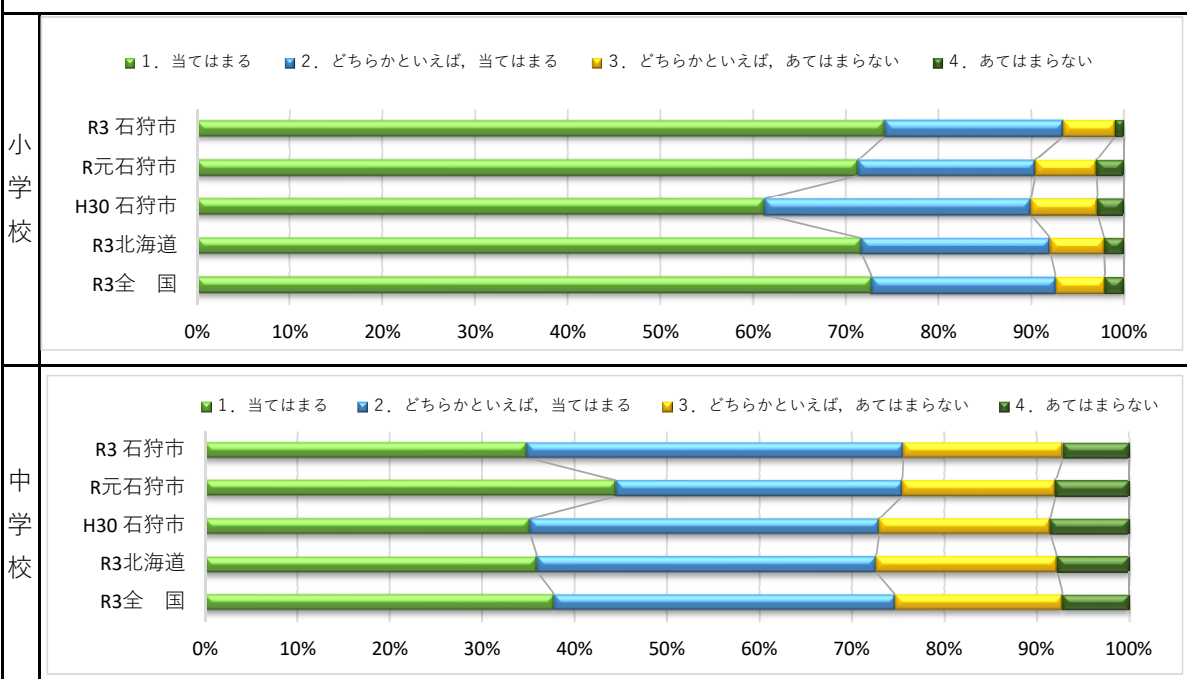
**15. 算数・数学の授業の内容はよく分かりますか**



**「算数・数学の学習は将来、役に立つ」と思う小学生は増加、中学生は全国とほぼ同様**

・「算数・数学の授業で学習したことは将来、社会に出たときに役に立つ・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で93.6%(全国比+1.0ポイント, 全道比+1.5ポイント)で、中学生では75.6%(全国比+1.0ポイント, 全道比+3.1ポイント)でした。

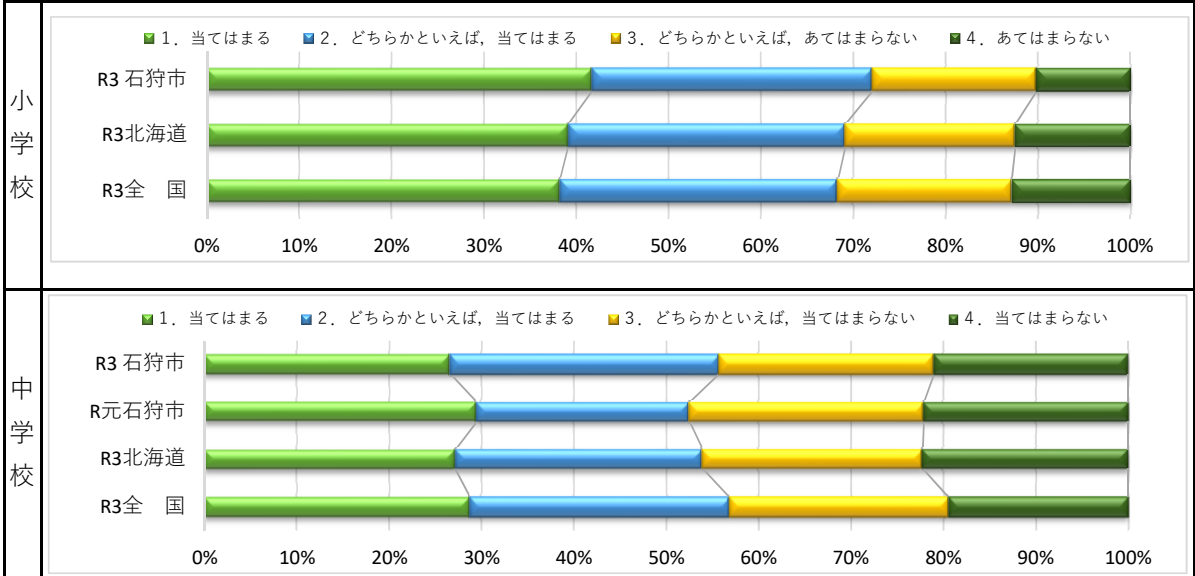
**16. 算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか**



**「英語の勉強は好きだ」と回答した小学生で7割超、中学生は約5割**

・「英語の勉強が好き・どちらかといえば好き」な割合は、初調査となった小学生で72.2%(全国比+3.9ポイント、全道比+3.1ポイント)で、中学生は55.7%(全国比-1.0ポイント、全道比+1.8ポイント)でした。

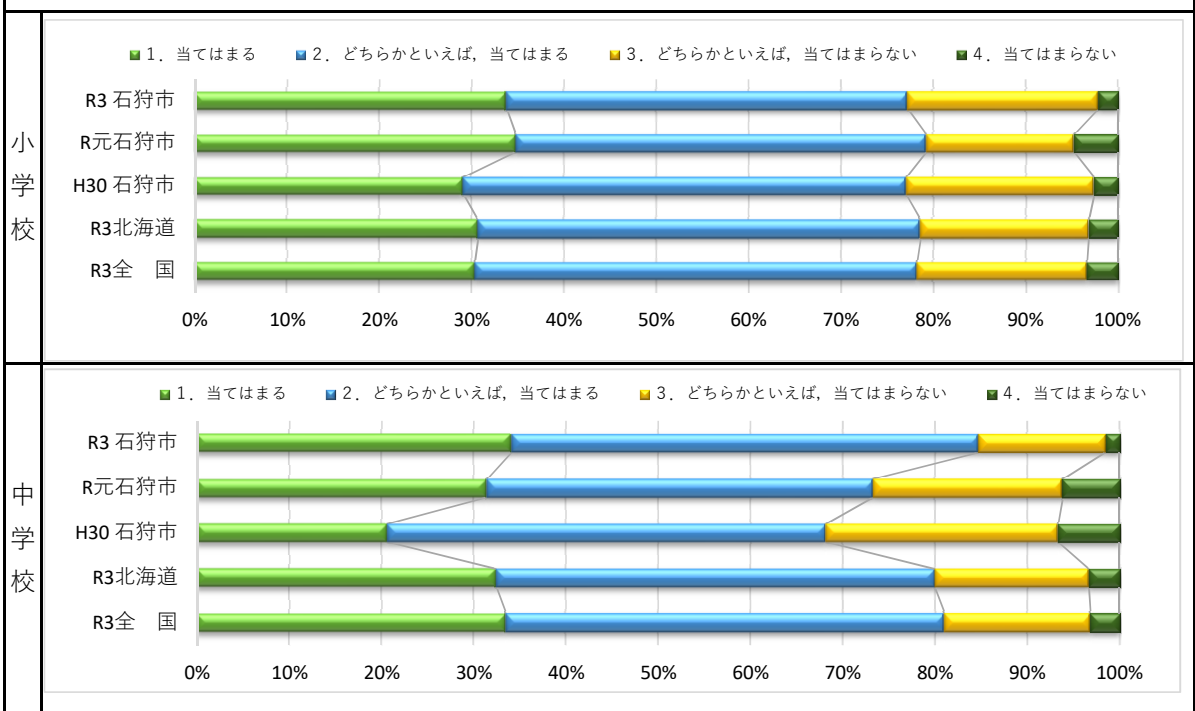
**17. 英語の勉強は好きですか**



**V 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善**  
**課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む小中学生は、8割前後**

・授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う・どちらかといえばそう思う割合は、小学生で77.3%(全国比-0.9ポイント、全道比-1.4ポイント)で、中学生では84.8%(全国比+3.8ポイント、全道比+4.9ポイント)でした。

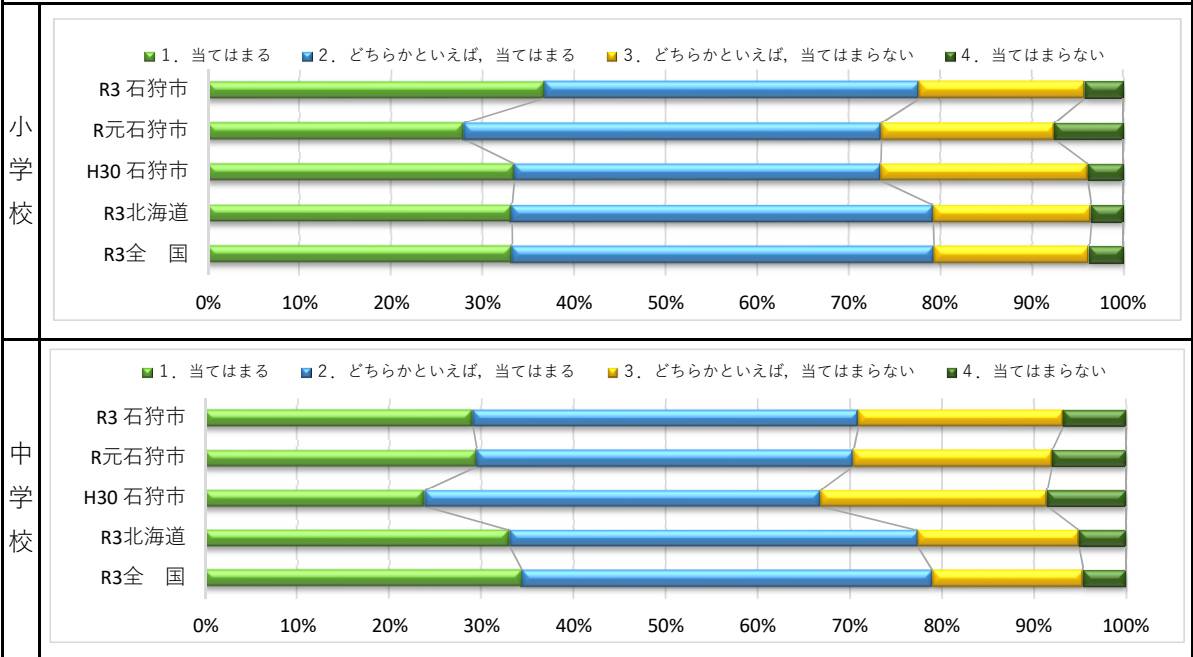
**18. 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか**



### 話し合いを通じて考えを深めたり、広げたりする授業は小学生で活発な傾向

・「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で77.5%(全国比-1.3ポイント、全道比-1.3ポイント)で、中学生では70.1%(全国比-7.7ポイント、全道比-6.2ポイント)でした。

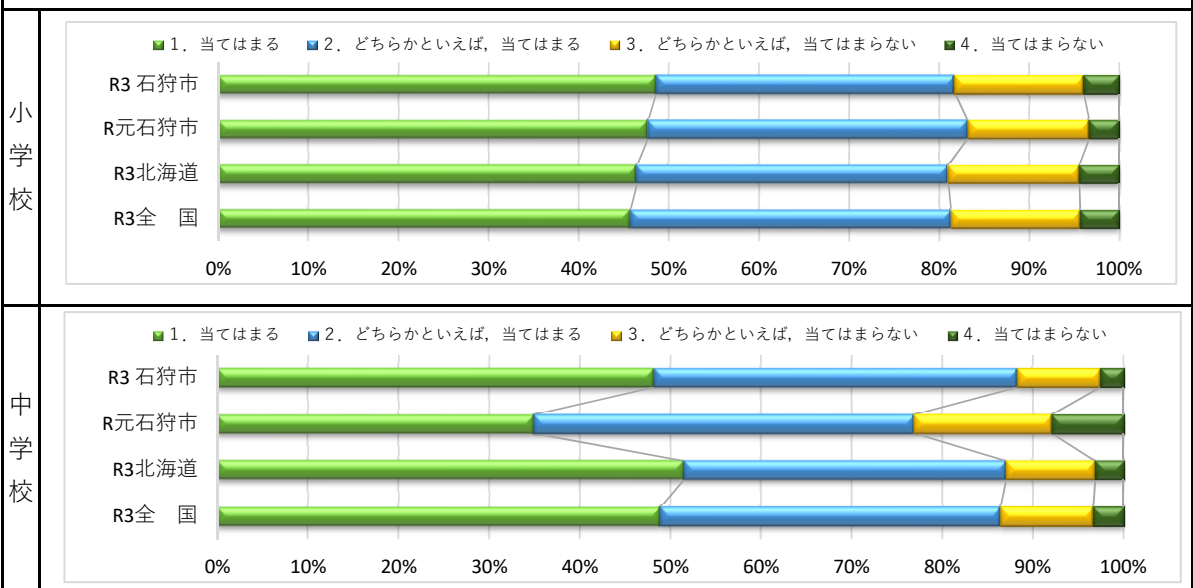
#### 19. 学級の仲間との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができると思いますか



### 道徳の授業で自分の考えを深めたり、話し合ったりする活動は小中学校で進捗

・「道徳の授業では自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で81.8%(全国比+0.7ポイント、全道比+0.9ポイント)で、中学生では88.3%(全国比+2.1ポイント、全道比+1.4ポイント)でした。

#### 20. 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思いますか

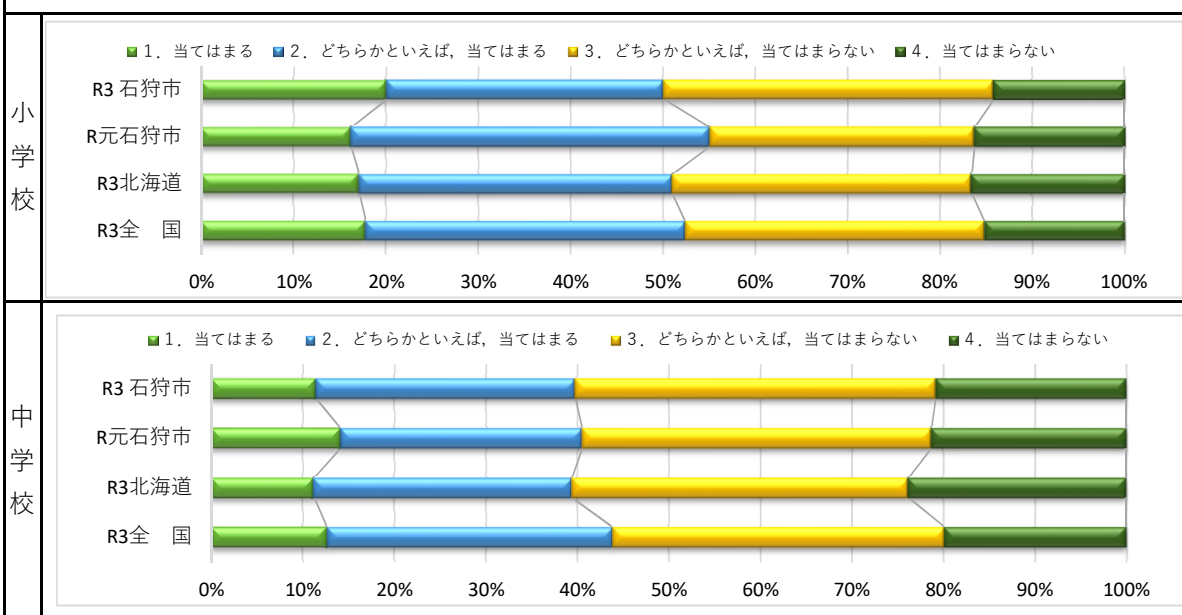


## VI 地域や社会への関心・新型コロナ感染拡大に係る勉強への不安

### 地域や社会への関心は、小学生・中学生ともに全国よりやや低い傾向

・「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある・どちらかといえば当てはまる」割合は小学生で50.1%（全国比-2.3ポイント，全道比-0.9ポイント）で，中学生では39.7%（全国比-4.1ポイント，全道比+0.3ポイント）でした。

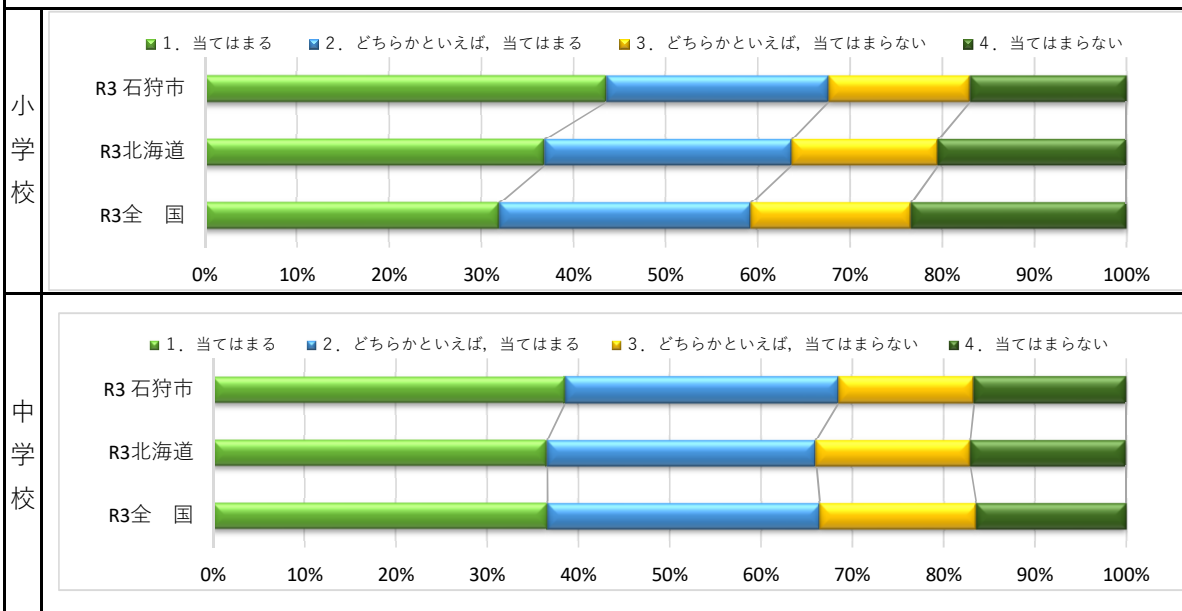
#### 2 1. 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか



### 新型コロナウイルス感染拡大による休校中，勉強についての不安は小中学生ともに6割超

・「休校中，勉強への不安を感じたことについて，当てはまる，どちらかといえば当てはまる」割合は小学生で64.4%（全国比+9.2ポイント，全道比+5.0ポイント），中学生では64.3%（全国比+1.5ポイント，全道比+2.0ポイント）でした。

#### 2 2. 新型コロナウイルス感染拡大で休校していた期間中，勉強について不安を感じましたか



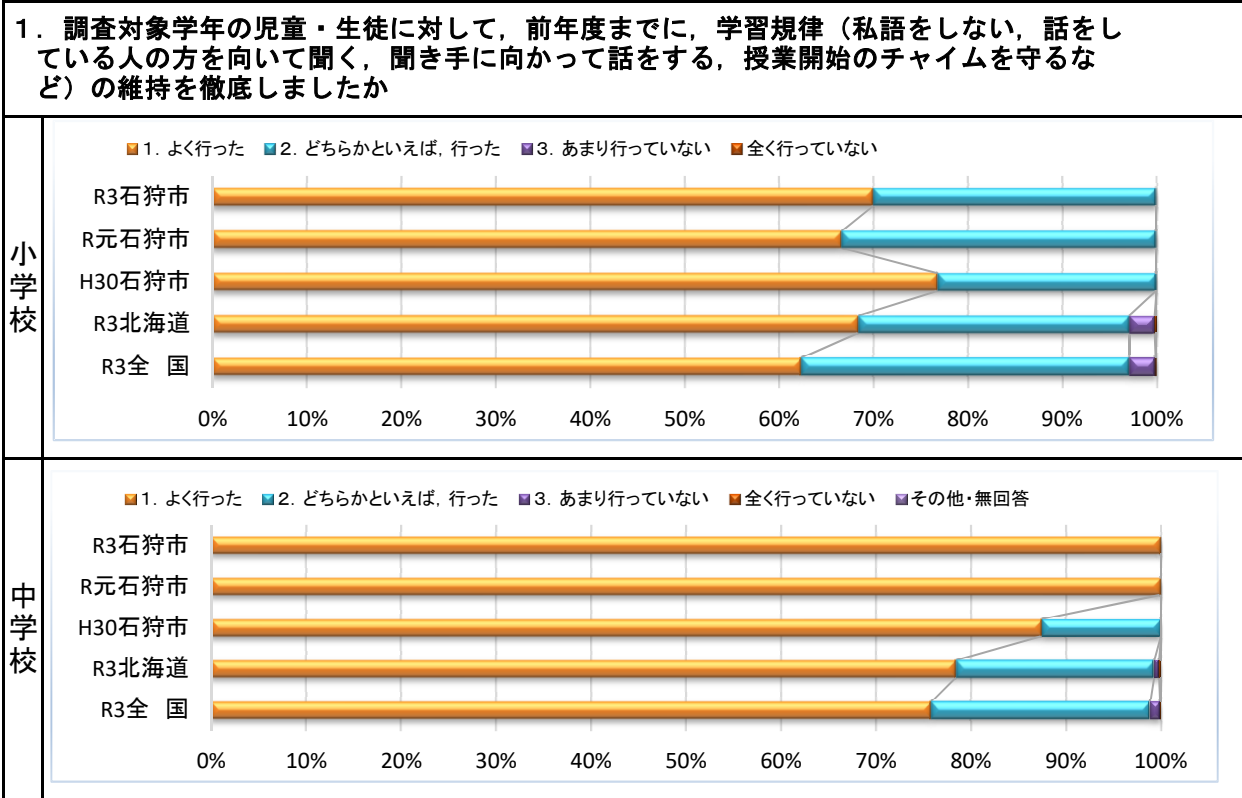


# 令和3年度 学習状況調査〔学校質問紙〕より

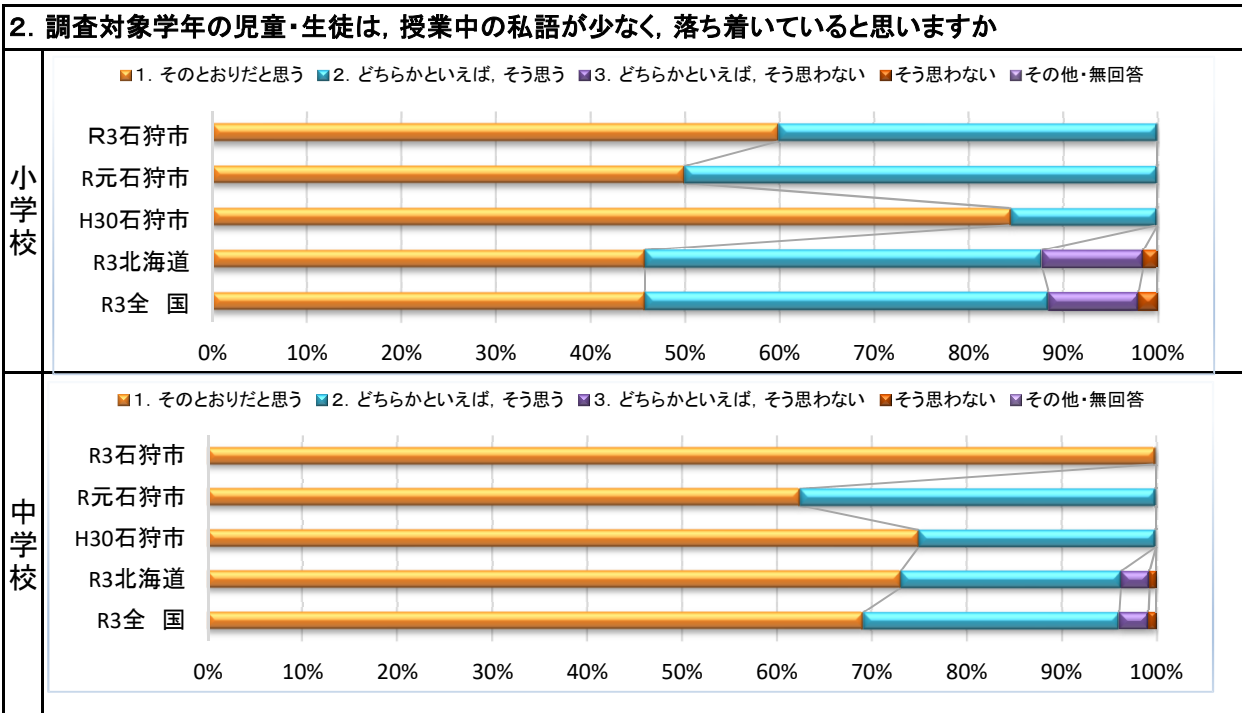
## I 規範意識・自己有用感

### 学習規律は小学校、中学校ともに定着

・「学習規律の維持を徹底してよく行った」の割合は、小学校で70.0%(全国比+7.7ポイント, 全道比+1.7ポイント)で、中学校では, 100%(全国比+24.2ポイント, 全道比+21.7ポイント)でした。



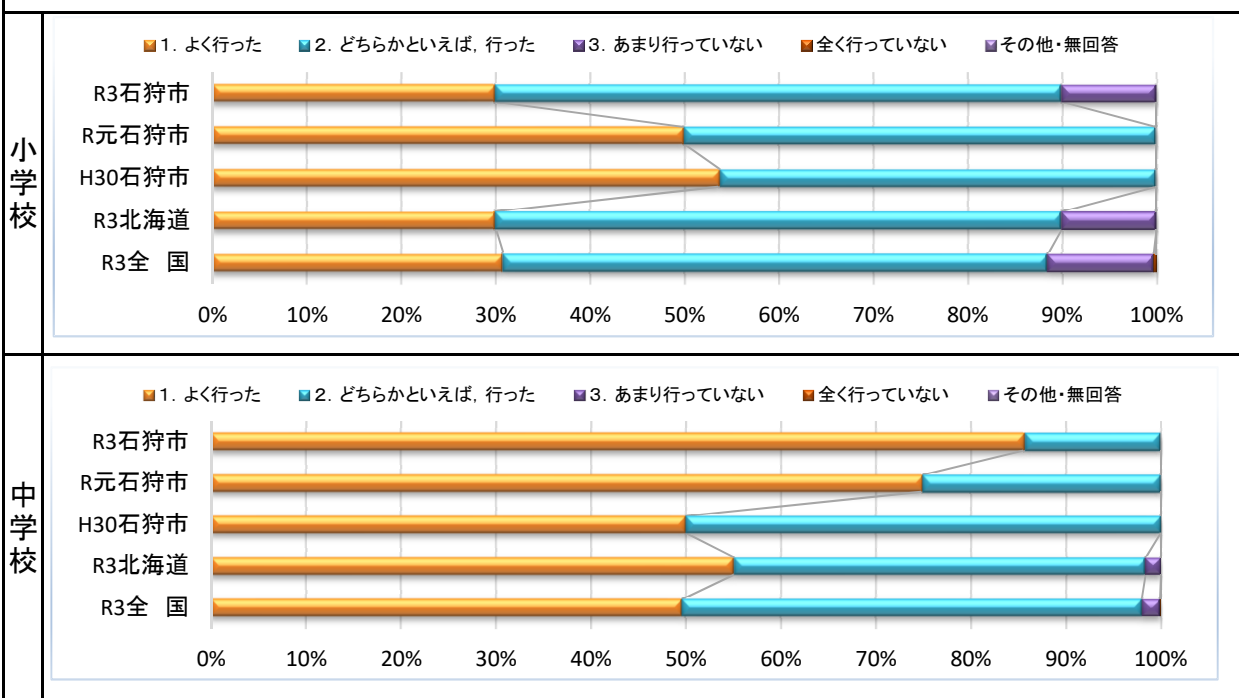
・「私語がなく落ち着いている」割合は, 小学校で60.0%(全国比+14.2ポイント, 全道比+14.2ポイント)で, 中学校では100.0%(全国比+30.9ポイント, 全道比+27.3ポイント)でした。



**自己有用感を育てる教育は中学校で進捗傾向**

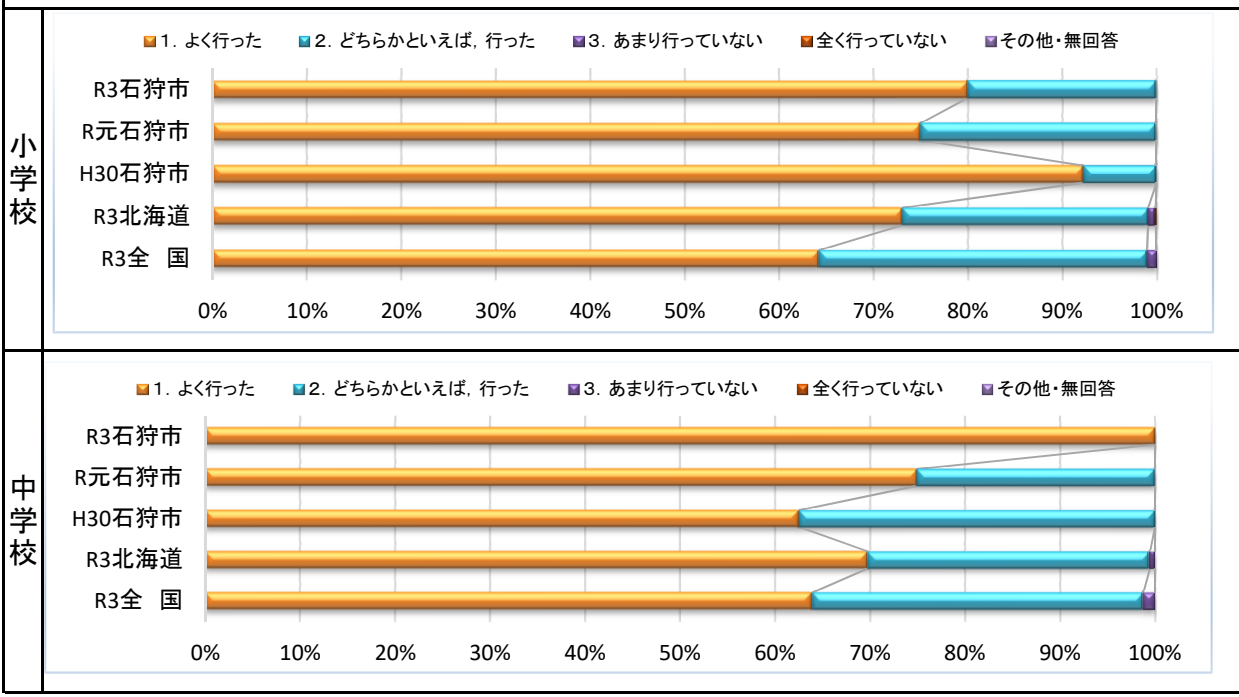
・「将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をよく行っている」割合は、小学校で30.0%(全国比-0.8ポイント, 全道比±0.0ポイント)で、中学校では85.7%(全国比+36.1ポイント, 全道比+30.7ポイント)でした。

**3. 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか**



・「一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組」の割合は、小学校で80.0%（全国比+15.9ポイント, 全道比+7.1ポイント）で、中学校では100.0%（全国比+36.2ポイント, 全道比+30.3ポイント）でした。

**4. 調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童・生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組をどの程度行いましたか**

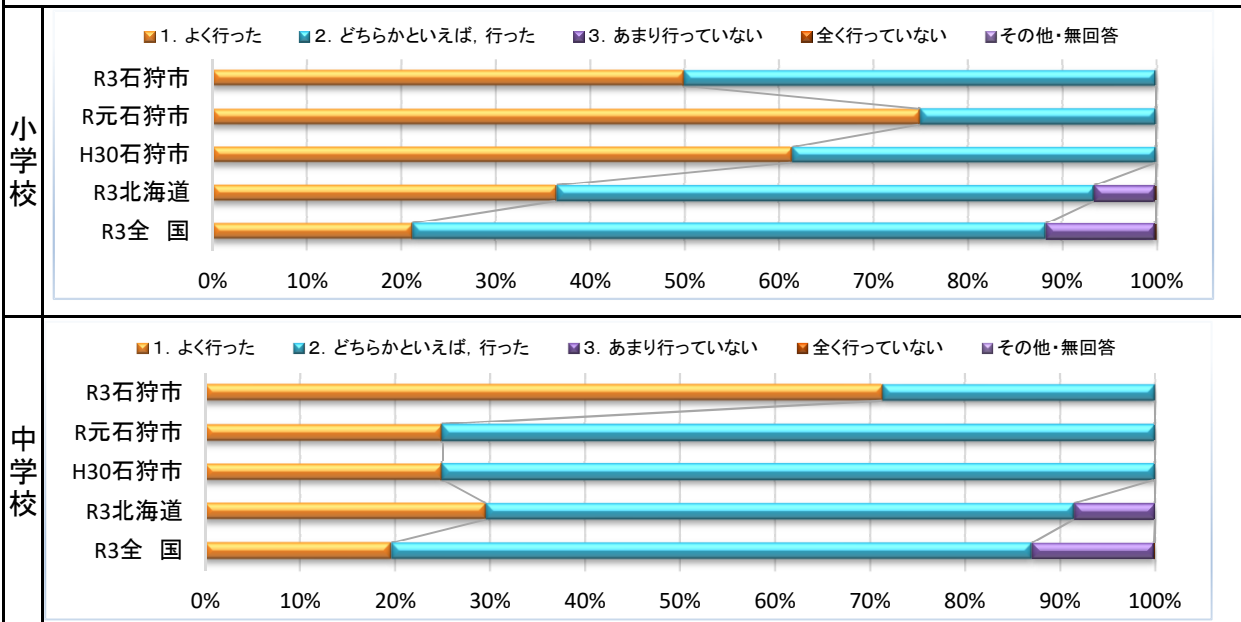


## II 学習指導・授業改善の取組

### 学習指導，授業方法の工夫・改善は進みつつも継続した取組が肝要

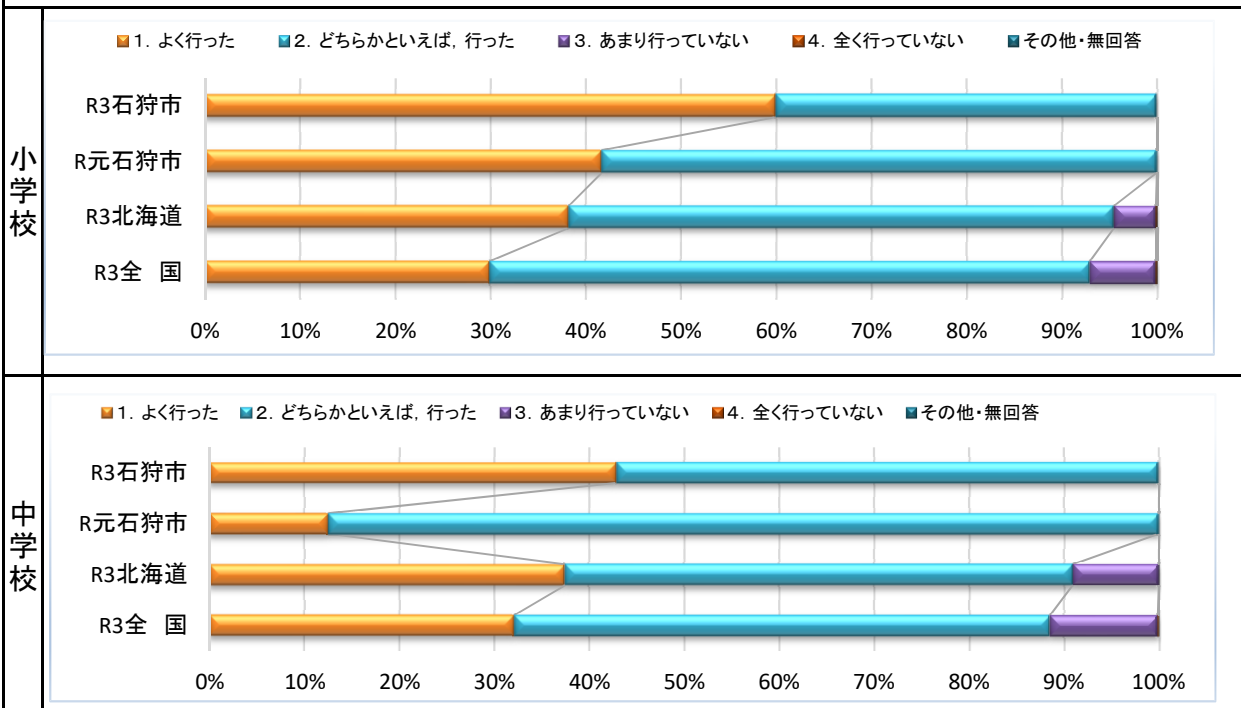
・「習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をした」割合は，小学校で50.0%(全国比+28.8ポイント，全道比+13.5ポイント)で，中学校では71.4%(全国比+51.8ポイント，全道比+41.8ポイント)でした。

#### 5. 調査対象学年の児童・生徒に対して，前年度までに，習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか



・「国語の指導として，前年度までに，目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業をよく行った」割合は，小学校で60.0%(全国比+30.1ポイント，全道比+21.8ポイント)で，中学校では42.9%(全国比+10.9ポイント，全道比+5.5ポイント)でした。

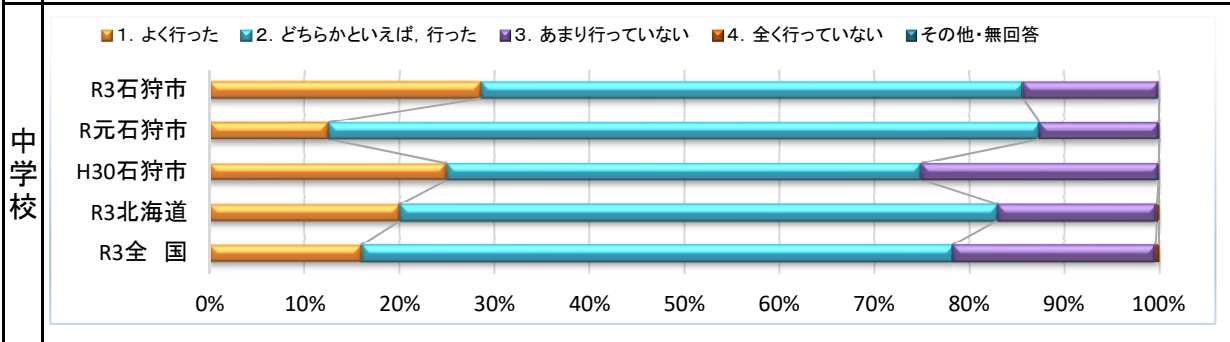
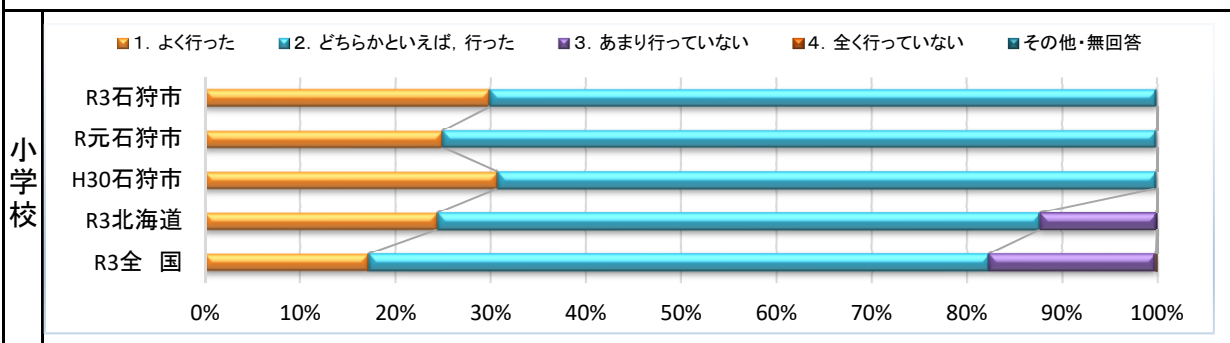
#### 6. 調査対象学年の児童に対する国語の指導として，前年度までに，目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか





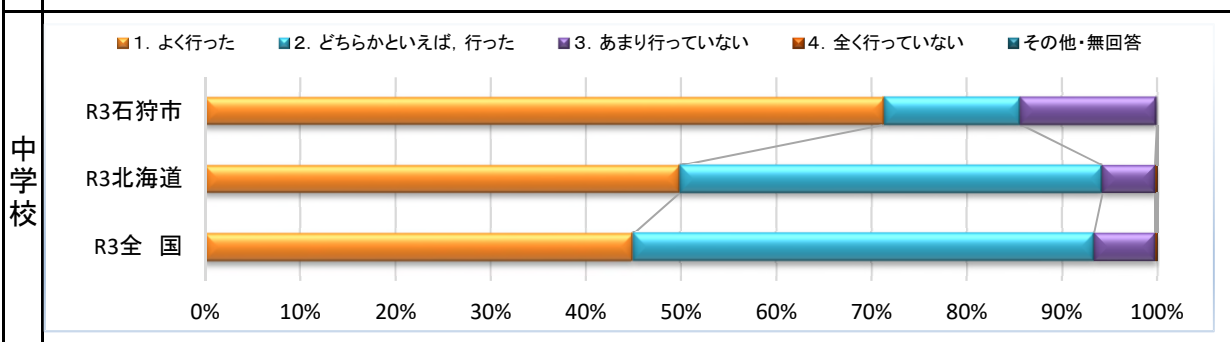
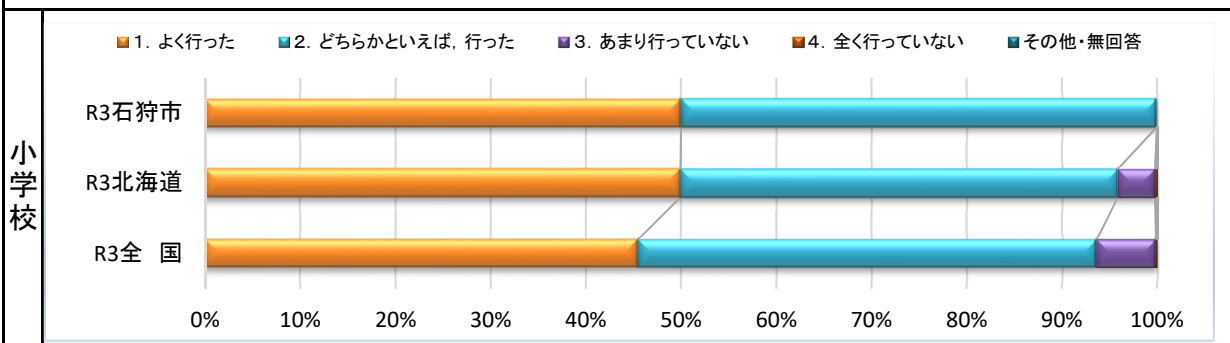
・「算数・数学の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業をよく行った」割合は、小学校で30.0%(全国比+12.8ポイント、全道比+5.6ポイント)で、中学校では28.6%(全国比+12.6ポイント、全道比+8.5ポイント)でした。

**7. 調査対象学年の児童・生徒に対する算数・数学の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか**



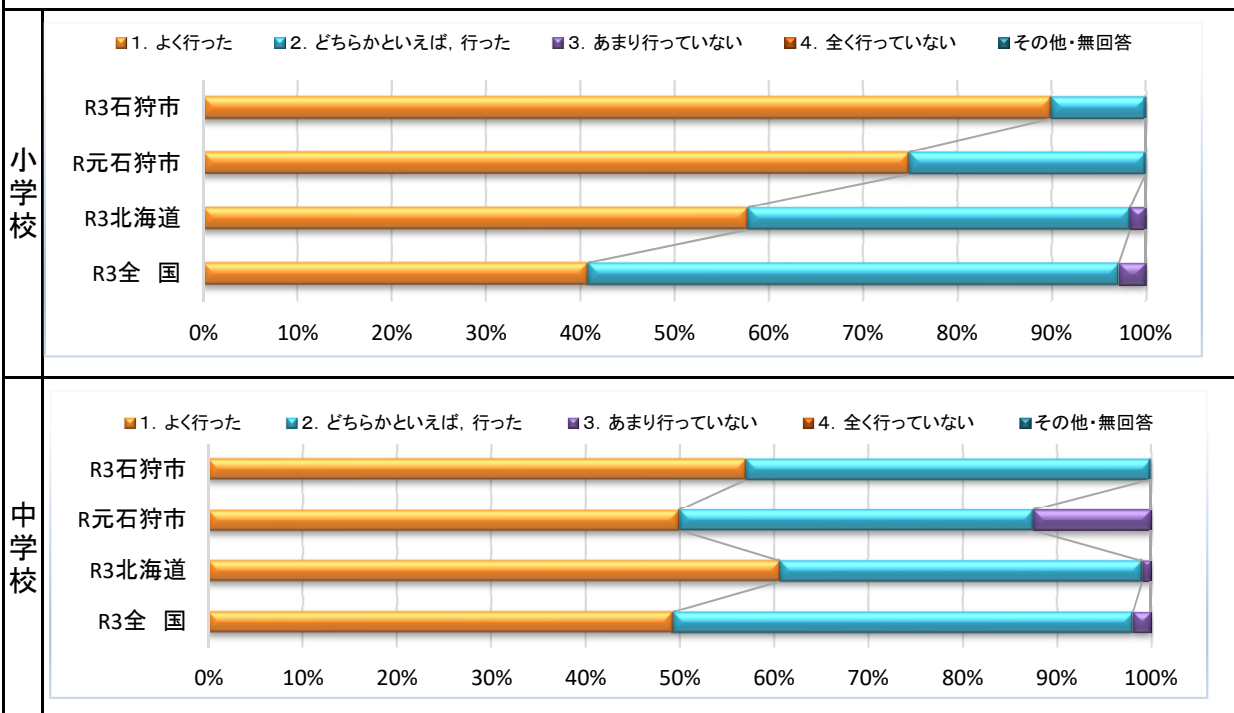
・「英語の指導として、前年度までに、自分自身の考えや気持ちを伝え合う(対話的な)活動をよく行った」割合は、小学校で50.0%(全国比+4.6ポイント、全道比+0.1ポイント)で、中学校では71.4%(全国比+26.4ポイント、全道比+21.5ポイント)でした。

**8. 調査対象学年の児童に対する英語の指導に当たって、前年度までに、英語で自分自身の考えや気持ちを伝え合う(対話的な)活動に取り組みましたか**



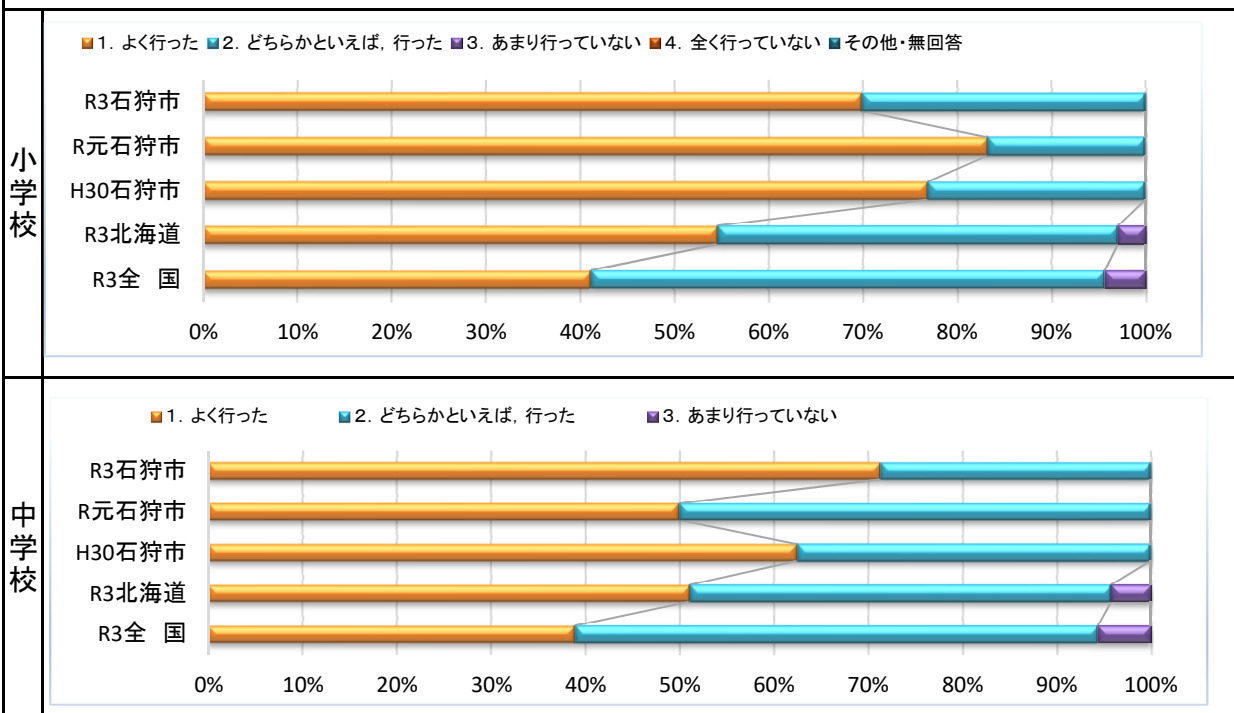
・「特別の教科 道徳において、児童生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をよく行った」割合は、小学校で90.0%(全国比+49.2ポイント、全道比+32.3ポイント)で、中学校では57.1%(全国比+7.9ポイント、全道比-3.6ポイント)でした。

**9. 特別の教科 道徳において、児童自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしていますか**



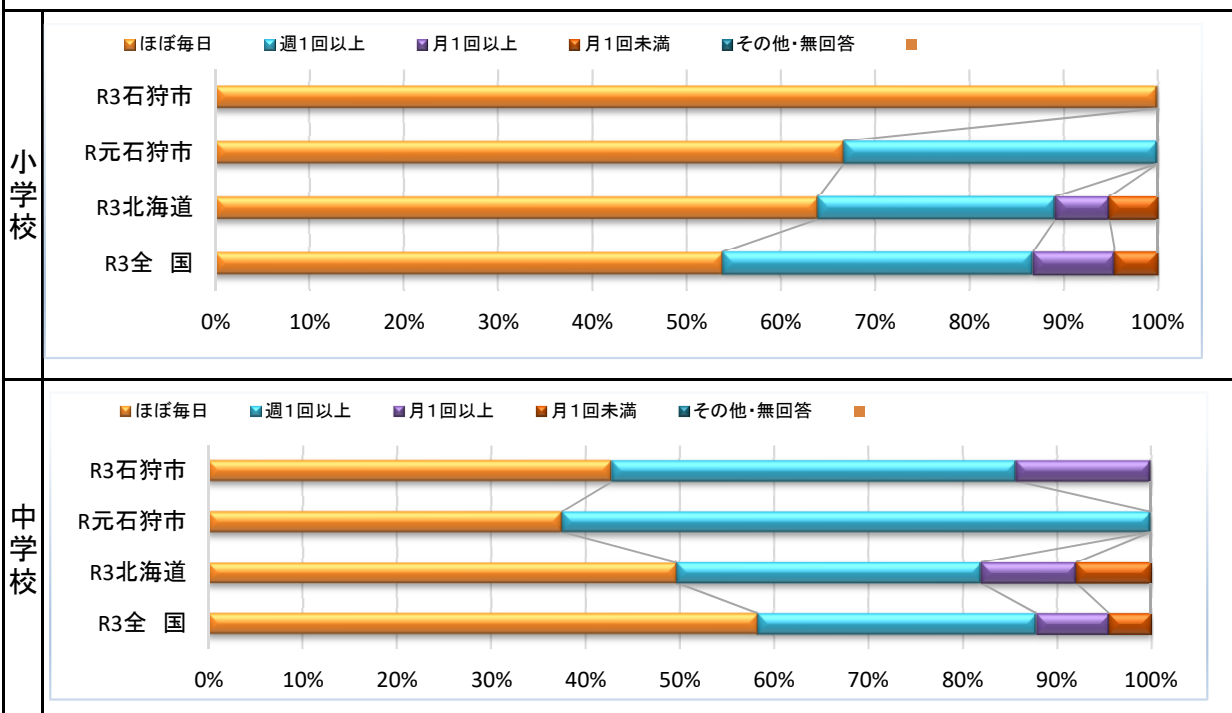
・「言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいる」割合は小学校で70.0%(全国比+28.8ポイント、全道比+15.4ポイント)で、中学校では71.4%(全国比+32.5ポイント、全道比+20.3ポイント)でした。

**10. 言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか**



・「教員が大型提示装置(プロジェクター, 電子黒板等)等のICTを活用した授業を1クラス当たりほぼ毎日行っていた」割合は小学校で100.0%(全国比+46.2ポイント, 全道比+36.1ポイント)で, 中学校では42.9%(全国比-15.4ポイント, 全道比-6.8ポイント)でした。

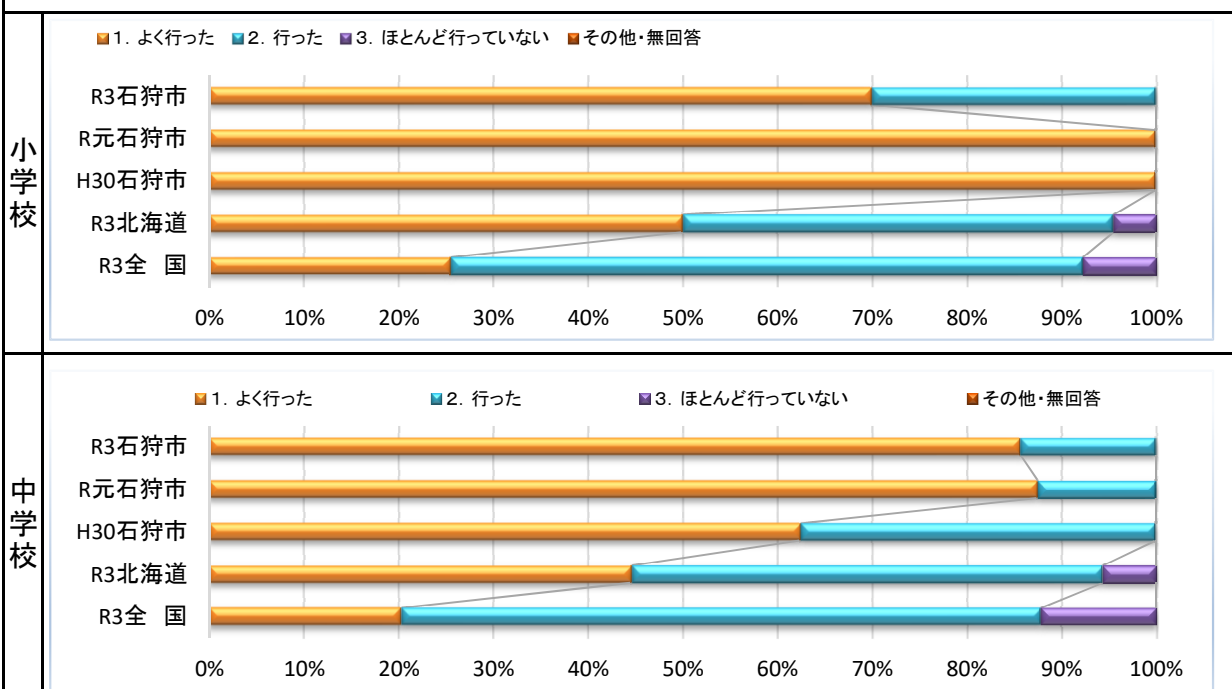
### 11. 調査対象学年の児童・生徒に対する指導において, 前年度に, 教員が大型提示装置(プロジェクター, 電子黒板等)等のICTを活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか



### 全国学力・学習状況調査の結果については積極的に活用

・「平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について, 調査対象学年・教科だけでなく, 学校全体で教育活動を改善するためによく活用した」割合は, 小学校で70.0%(全国比+44.5ポイント, 全道比+20.1ポイント)で, 中学校では, 85.7%(全国比+65.4ポイント, 全道比+41.1ポイント)でした。

### 12. 平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について, 調査対象学年・教科だけでなく, 学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか

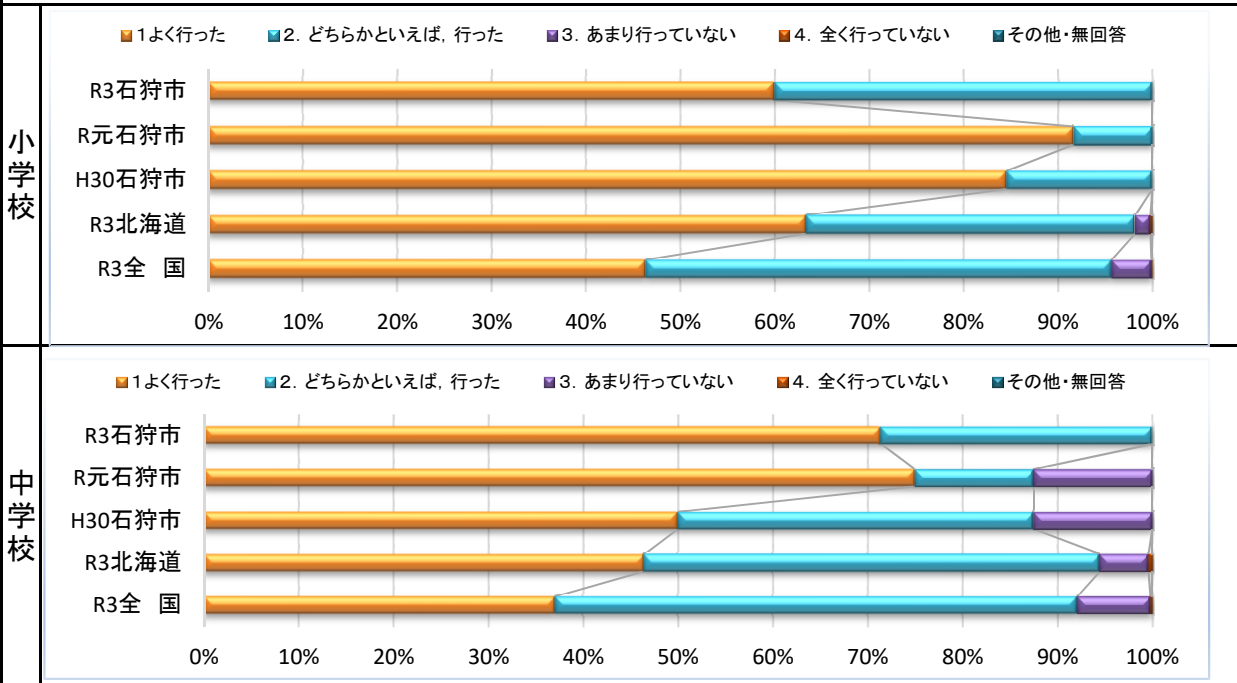


### III 家庭学習の取組・補足的な学習

#### 家庭学習への積極的な働きかけや補充学習の取組は定着

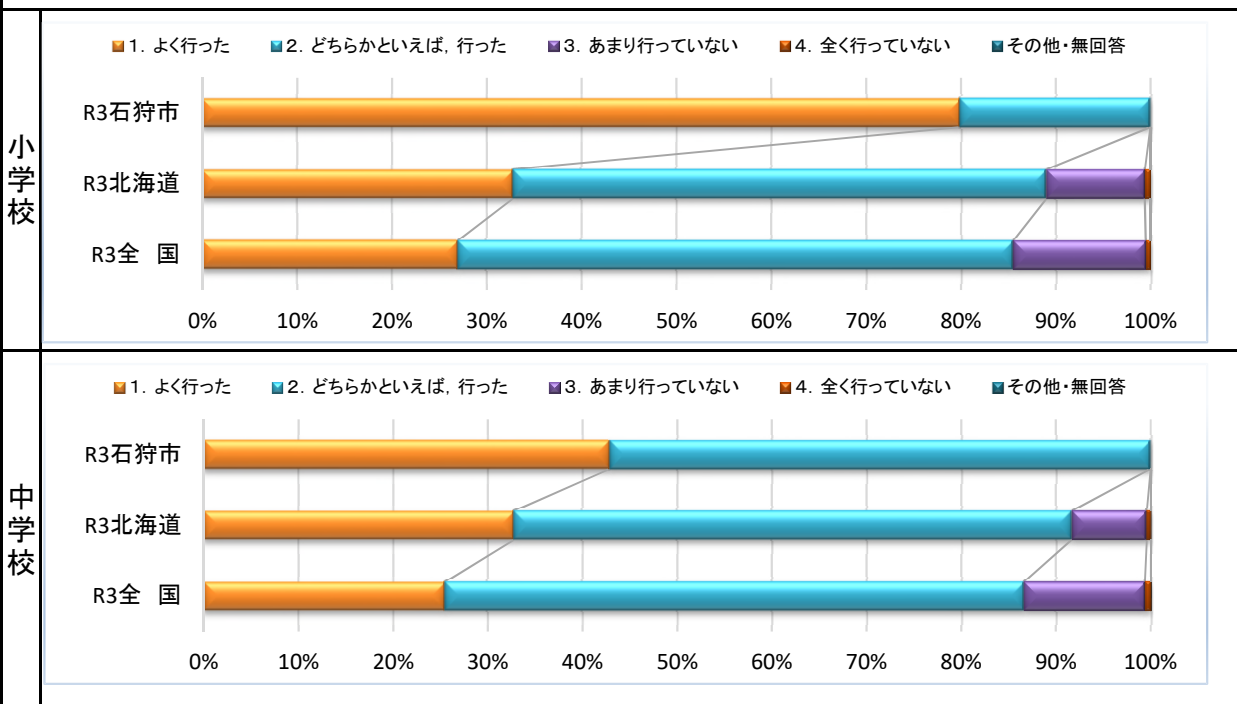
・「前年度までに、家庭学習の取組として、児童・生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしたことについて、よく行った」割合は、小学校で60.0%(全国比+13.7ポイント, 全道比-3.3ポイント)で、中学校では、71.4%(全国比+34.4ポイント, 全道比+25.0ポイント)でした。

#### 13. 調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしましたか(教科共通)

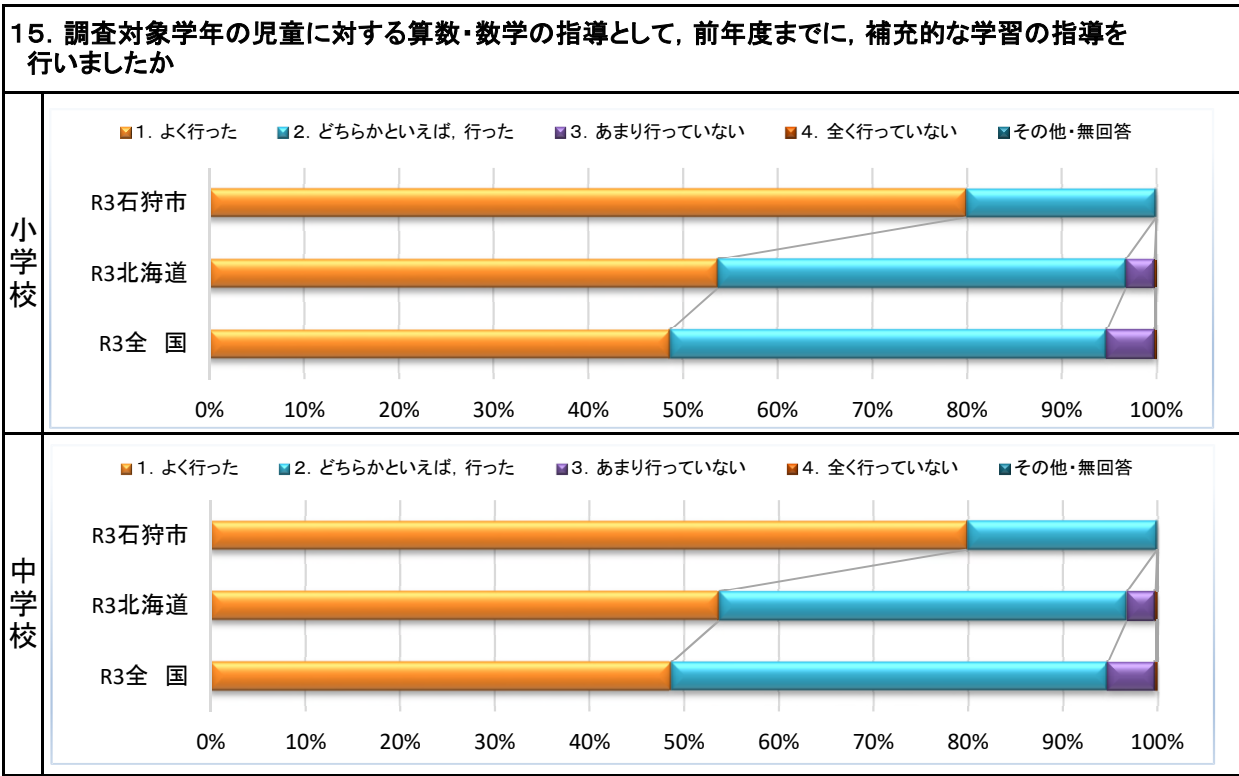


・「国語の指導として、家庭学習の課題(宿題)をよく与えた」割合は、小学校で80.0%(全国比+53.0ポイント, 全道比+47.2ポイント)で、中学校では、42.9%(全国比+17.4ポイント, 全道比+10.1ポイント)でした。

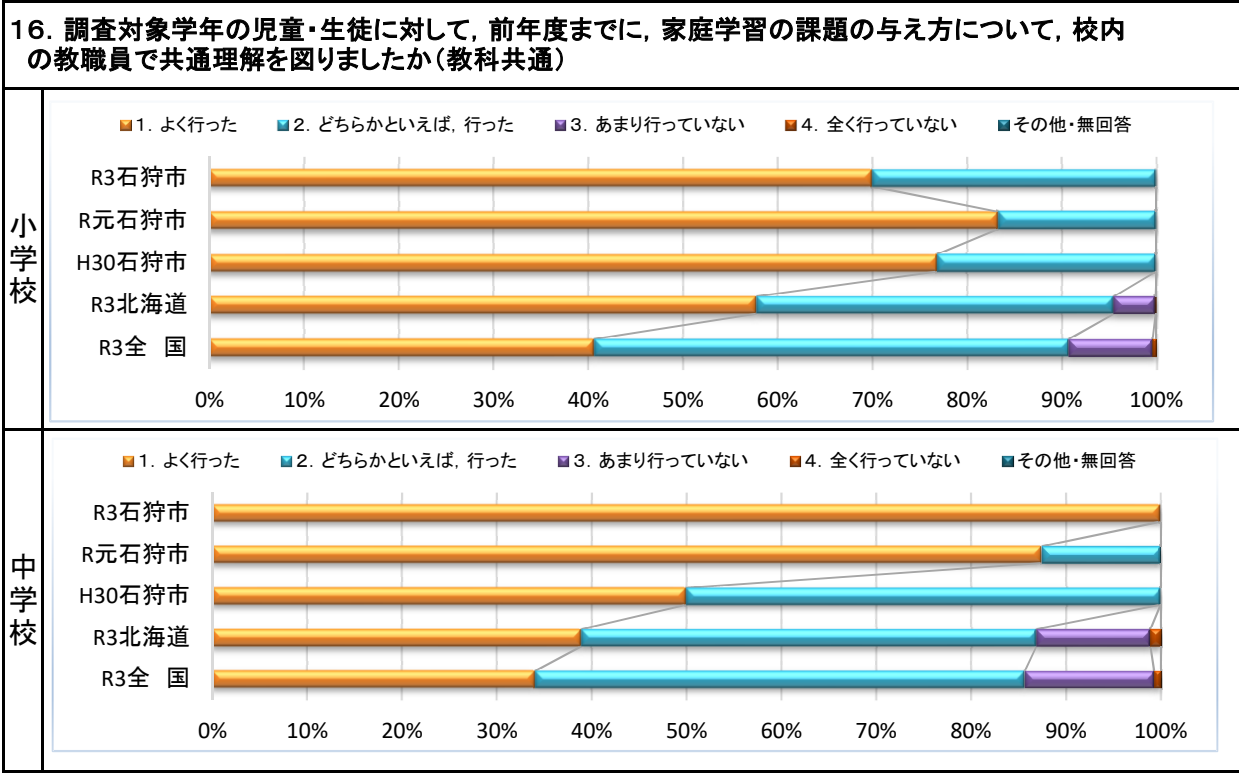
#### 14. 調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、補足的な学習の指導を行いましたか



・「算数・数学の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行った割合は、小学校で80.0%(全国比+31.4ポイント、全道比+26.3ポイント)で、中学校では、80.0%(全国比+31.4ポイント、全道比+26.3ポイント)でした。



・「家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解をよく図った(教科共通)」割合は、小学校で70.0%(全国比+29.4ポイント、全道比+12.3ポイント)で、中学校では100.0%(全国比+66.0ポイント、全道比+61.0ポイント)でした。

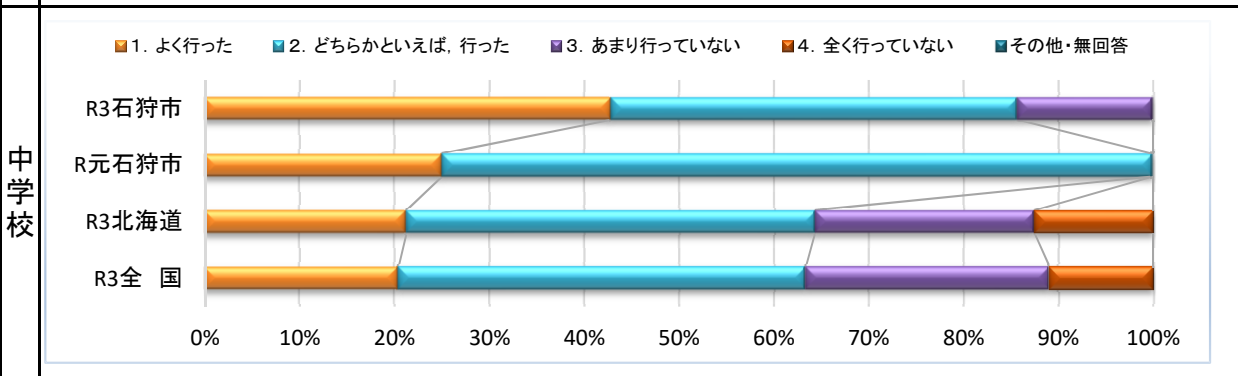
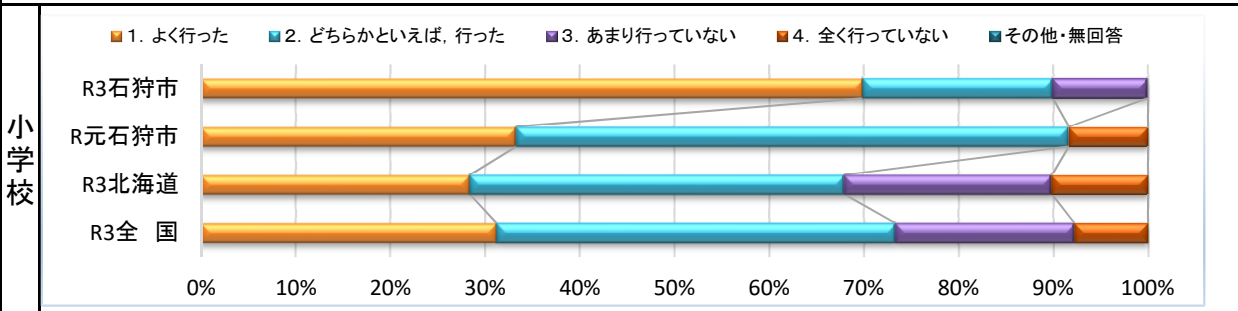


## IV 家庭・地域・小中学校間連携

### 地域の人材活用や小中間の連携教育は着実に進展

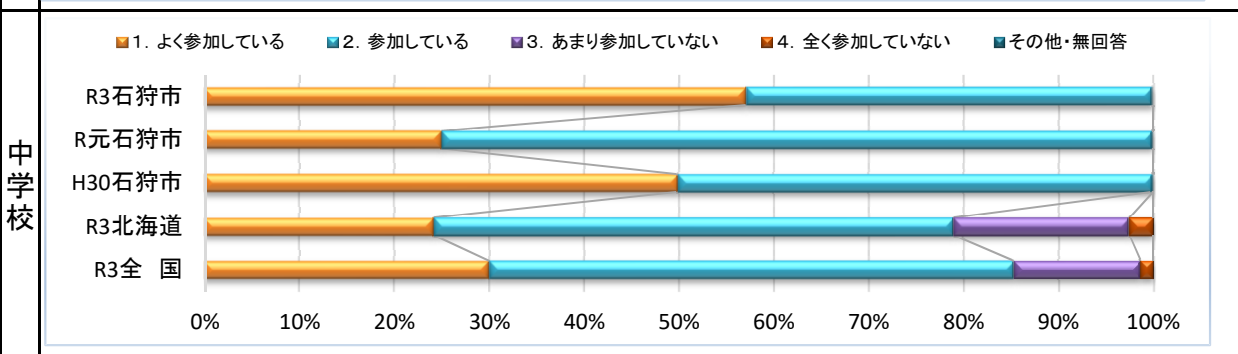
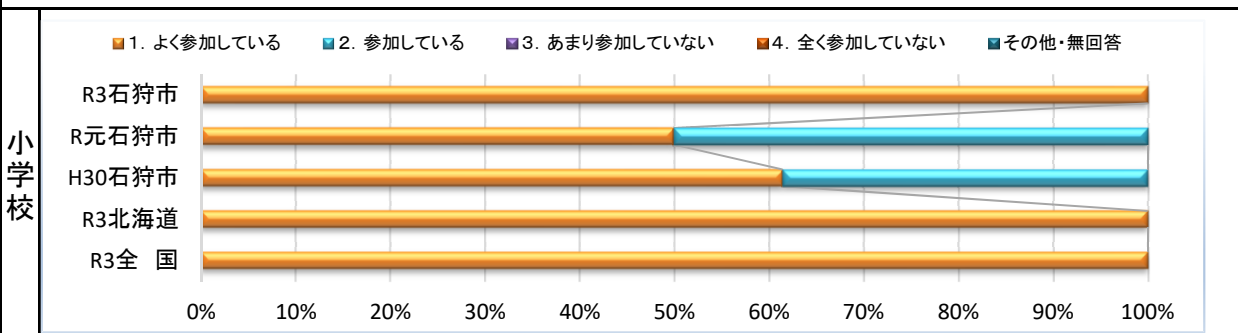
・「地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動をよく行った」割合は、小学校で70.0%(全国比+38.8ポイント、全道比+41.6ポイント)で、中学校では42.9%(全国比+22.5ポイント、全道比+21.7ポイント)でした。

#### 17. 地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか



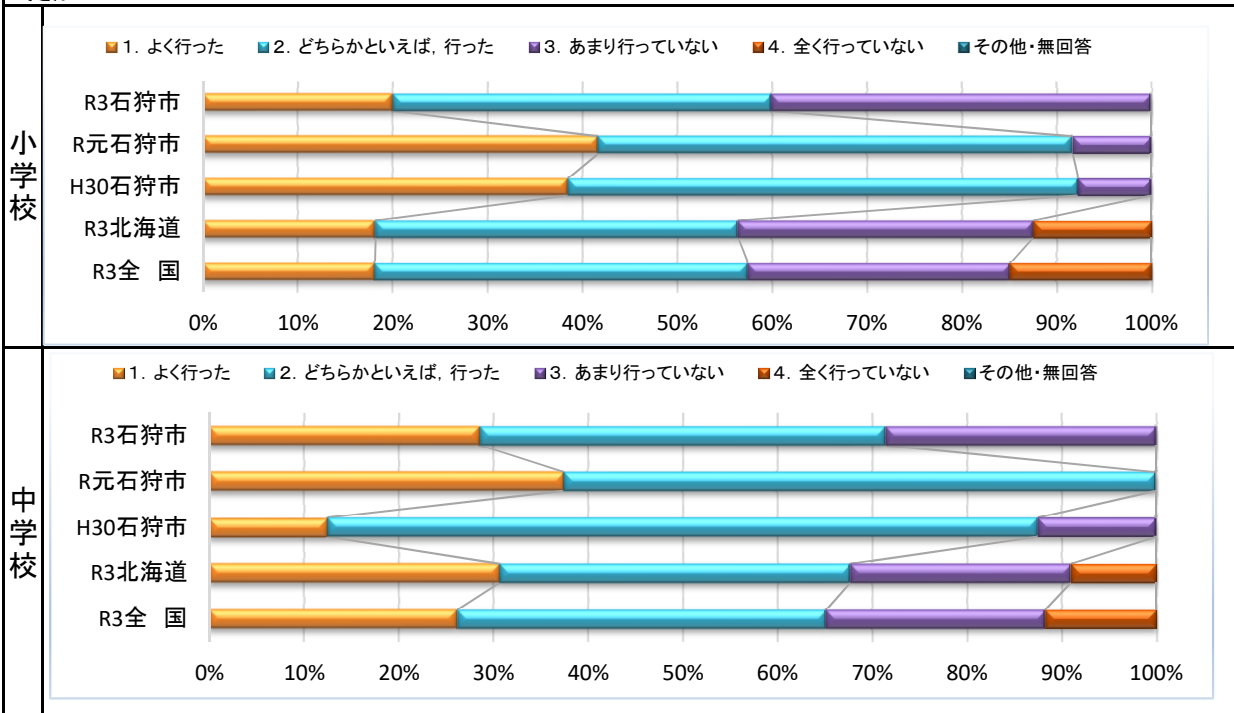
・「保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動によく参加している」割合は、小学校で50.0%(全国比-4.2ポイント、全道比+2.0ポイント)で、中学校では57.1%(全国比+27.1ポイント、全道比+32.9ポイント)でした。

#### 18. 保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加していますか



・「前年度までに、近隣等の中学校(小学校)と、授業研究を行うなど、合同して研修をよく行った」割合は、小学校で20.0%(全国比+1.9ポイント、全道比+1.9ポイント)で、中学校は28.6%(全国比+2.4ポイント、全道比-2.1ポイント)でした。

**19. 前年度までに、近隣等の中学校(小学校)と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか**



・「全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小・中学校と成果や課題の共有をよく行った」割合は、小学校で40.0%(全国比+27.5ポイント、全道比+15.3ポイント)で、中学校では71.4%(全国比+56.5ポイント、全道比+41.1ポイント)でした。

**20. 平成31年度(平成元年度)の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校と成果や課題を共有しましたか**

